

Adobe Premiere Pro 基礎

明治大学 教育の情報化推進本部

はじめに

Adobe Premiere Pro は動画編集ソフトです。本講座では、Adobe Premiere Pro の基礎的な操作方法と、便利な機能、効果的な編集方法など様々な Tips を交えて進めていきます。

Adobe ソフトウェアは基本操作さえマスターすれば、応用的な機能をどのように操作すればよいかを推測して、活用できるようになります。本講座終了後もどんどん画面を操作して、映像作品を作り上げることができるようになることを目標としています。

本講座について

映画や CM などの映像制作現場において、大きく 3 つの段階がワークフローとして存在します。

1. **企画、シナリオ**の段階で、全体のプランニング、絵コンテ、脚本を作成します。
2. **撮影、録音**では、ロケハンを行い、撮影場所の選定と撮影機材の選定を行い、撮影します。
3. **編集・出力**では、いよいよ Adobe Premiere Pro を使ってカット、挿入などの編集と、最終的に 1 本の動画にする”書き出し”を行います。

本講座では、企画・シナリオと撮影・録音はすでに終了し、素材がすべてそろっている段階とし、**編集と出力** から始めていきます。

注意点

このマニュアルは以下の PC 環境で作成しています。

OS : Windows10

バージョン : Adobe Premiere Pro CC 2018

※ Adobe Premiere Pro は有償ソフトウェアです。あらかじめソフトウェアを購入・インストールした PC 以外では利用できません。

今回使用する実習用ファイルは本講習受講の目的以外に利用することを禁止します。

実習用ファイルの保存

ご自身の PC から作業される方は

オンライン講習会ページの“実習用ファイル”をクリックすると One Drive のページに移動します。フォルダ「Adobe Premiere Pro.zip」を 4GB 相当の空きがある、任意の場所に保存して、解凍しておきましょう。

大学の PC から作業される方は

4 GB 相当の USB メモリ等を保存先としてお使いになることをお勧めします。次の手順で保存しましょう。

1. デスクトップの Google Chrome を開きます。
2. ブラウザの右、 マークをクリックして「設定」を選択します。
3. ブラウザの左、「詳細設定」をクリックし、ダウンロードを選択します。
4. 「ダウンロード前に各ファイルの保存場所を確認する」を ON にします。
5. オンライン講習会ページの“実習用ファイル”をクリックすると One Drive のサイトに移動します。
6. 「Adobe Premiere Pro.zip」をダウンロードし、4GB 相当の USB メモリに保存しましょう。
7. USB メモリに保存されますので、この圧縮ファイル Adobe Premiere Pro.zip を右クリックして解凍→ここに解凍 をクリックしておきましょう。

補足：上記の設定をせずに、フォルダ「Adobe Premiere Pro.zip」をダウンロードすると、自動的に MyDocs のダウンロードフォルダへの保存が始まりますが、MyDocs は 300MB の容量しかありませんので保存できません。動画の編集ファイル、素材は容量が大きく、MyDocs には入りきりません。このテキストではデスクトップに保存した形で進めていきますが、大学の PC はサインアウト、再起動をすると MyDocs 以外に保存されたデータはすべて消去されてしまいます。

※ テキストではデスクトップ保存を想定しています。

目次

はじめに	1
本講座について	
注意点	
実習用ファイルの保存	

1. 編集を始める前に

- 1-1 編集の流れ
- 1-2 実習用フォルダの確認・整理

2. Premiere Proの起動～プロジェクトの作成

- 2-1 Premiere Proの起動～プロジェクトの作成
- 2-2 画面構成

3. 素材の読み込み～シーケンスの作成

- 3-1 素材の読み込み
- 3-2 素材をタイムラインへ乗せる
- 3-3 シーケンス

4. プロジェクトファイルの保存・終了・再開

- 4-1 保存
- 4-2 終了
- 4-3 再開

5. 編集 再生～トリミングの基本

- 5-1 タイムラインに並べた素材を再生する～タイムラインとモニターの見方
- 5-2 トリミングの基本（選択ツール）
- 5-3 トリミングの基本（リップルツール）

6. クロスディゾルブとクロスフェード

- 6-1 ワークスペースの変更
- 6-2 クロスディゾルブ
- 6-3 クロスフェード

7. タイトルの作成

- 7-1 テキストレイヤーを配置する
- 7-2 エッセンシャルグラフィックス
- 7-3 キーフレームを使ってテキストにアニメーションをつける
- 7-4 テキストクリップにクロスディゾルブをかける
- 7-5 テキストクリップをコピー＆ペーストする
- 7-6 タイトルにSE（サウンドエフェクト）をつける
- 7-7 SEのボリュームレベルを下げる
- 7-8 SEの長さを調整し、クロスフェードをかける
- 7-9 SEにクロスフェードをかける

8. イン点～アウト点・・・・・・・・・・25

8-1 イン点～アウト点

8-2 シーケンスの画面サイズとクリップのサイズが異なる場合

付録： いろんなトリミング

付録： ピクチャー・イン・ピクチャー

付録： トラックにナレーションを録音する（ボイスオーバー録音）

9. BGM・ナレーション・レターボックス・字幕・静止・・・・・・・・・・31

9-1 BGMを配置する

9-2 ナレーションを配置する

9-3 レターボックスを作成する

9-4 字幕のテキスト

9-5 クロスディゾルブ「暗転」・静止画の配置

10. 実習・・・・・・・・・・38

11. さまざまな効果・・・・・・・・・・41

11-1 スロー再生

11-2 一時停止

11-3 Lumetri カラー

12. エンディング・・・・・・・・・・44

12-1 テキストを回転させる

12-2 エンディングテロップを作成する①

12-3 エンディングテロップを作成する②

12-4 BGM に最後のクロスフェードをかけ、終了位置を決定する

13. 書き出し・・・・・・・・・・48

13-1 書き出し

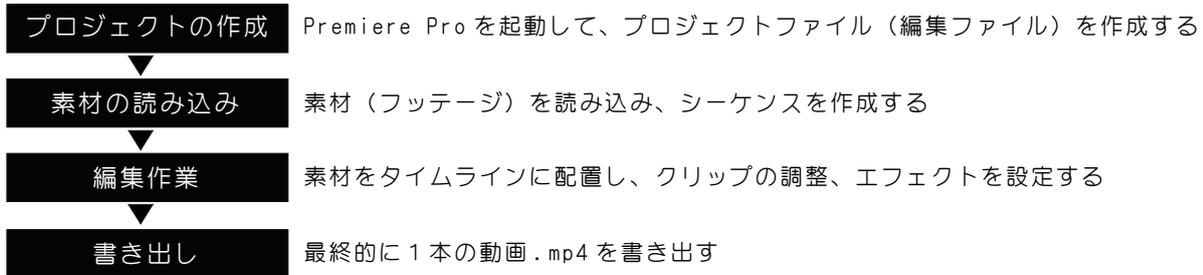
1

編集を始める前に

Adobe ソフトウェアを始める上で最も基本的な作業はフォルダの整理です。
編集を始める前に編集作業の流れとフォルダの中を確認しましょう。

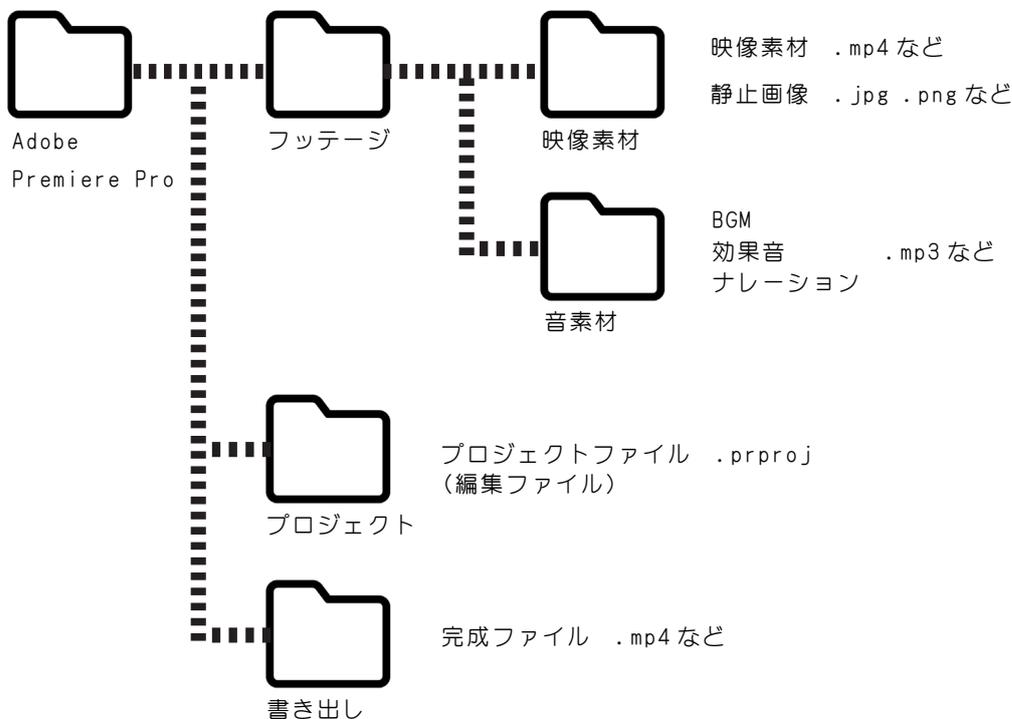
1-1 編集の流れ

本講座での編集の流れは以下のようになっています。



1-2 実習用フォルダの確認・整理

今回使用する実習用フォルダ（Premiere Pro）は下の図のようになっています。今回は編集段階からはじめていきますので、すでに整理されていますが、自身で素材を用意する場合には、下記の図のような形で保存しておくことでファイルの場所がわかりやすくなります。



注意：プロジェクトファイルに読み込んだ素材は、ファイルのある場所、名前とリンクされていますので、変更しないようにしましょう。

2 Premiere Proの起動～プロジェクトの作成

Adobe Premiere Pro を起動し、プロジェクトファイルを作成します。
画面構成も見ていきましょう。

2-1 Premiere Pro の起動～プロジェクトの作成

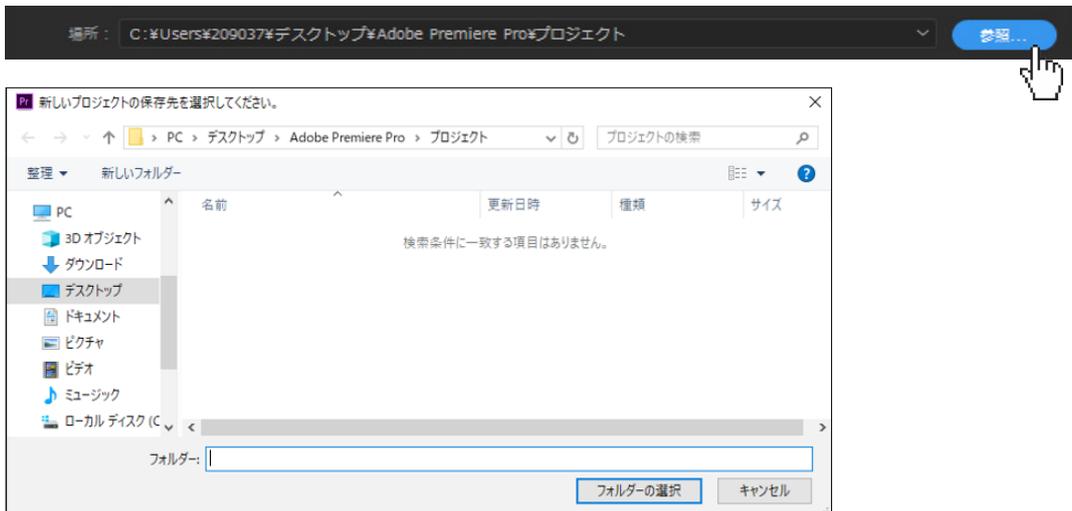
1. スタートメニューから「Adobe Premiere Pro CC 2018」をクリックします。
2. 「新規プロジェクト」をクリックします。



3. プロジェクトファイルの名前を入力します。ここでは「Premiere Pro 基礎」とします。



4. 保存先を設定します。「参照」をクリックします。
デスクトップ→Adobe Premiere Pro→プロジェクト フォルダを選択します。



5. 右下の「OK」をクリックします。



2-2 画面構成

Premiere Proの編集画面は複数のパネルで構成されています。ここではデフォルトで表示されるワークスペースの構成を見ていきましょう。



ワークスペースは自在に大きさ、領域を動かすことができます。場面によって編集しやすいワークスペースの構築が可能です。

TIPS

ここからPremiereの画面を操作していきます。もし、誤った操作をしたとき、作業を戻りたいときのショートカットキーはCtrl+Zです。

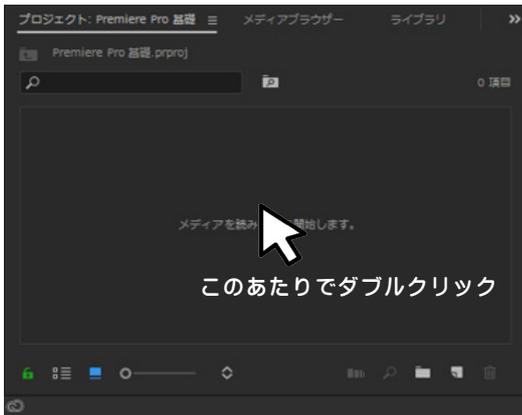
Ctrl+Z 作業の取り消し

3 素材の読み込み～シーケンスの作成

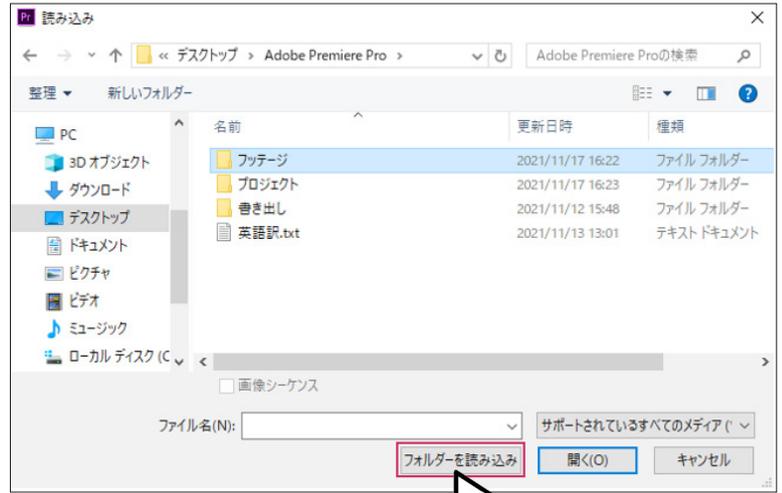
プロジェクトパネルへ素材を読み込みます。そして、素材をタイムラインに乗せていきます。完成する動画のサイズやフレーム数などを設定するシーケンスもみていきましょう。

3-1 素材の読み込み - プロジェクトパネル -

1. プロジェクトパネル上でダブルクリックします。



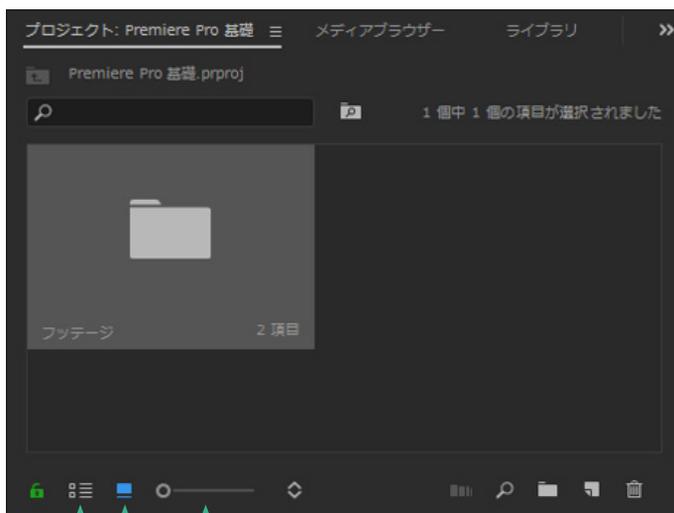
2. 読み込みウィンドウが表示されますので、デスクトップ→Adobe Premiere Pro→フッターを選択し、「フォルダを読み込み」をクリックします。



読み込み方法は他にも、メニューバーのファイル→読み込み からできます。

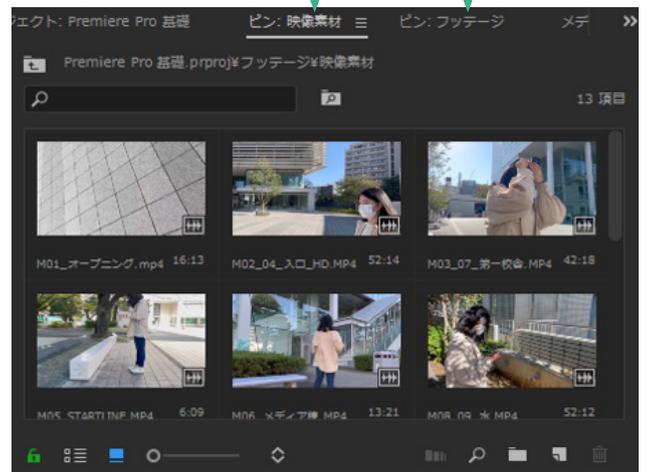
また、ウィンドウから素材をそのままプロジェクトパネル上にドラッグ&ドロップしても読み込むことができます。

3. プロジェクトパネルに素材が読み込まれました。フォルダをダブルクリックしていくと各フォルダの中を表示することができ、パネルに各フォルダが割り当てられます。プロジェクトパネルでは、フォルダのことを「ビン」と呼んでいます。



素材の表示を拡大・縮小するスライダ
素材の表示形式をサムネイルにするボタン
素材の表示形式を詳細にするボタン

フォルダ（ビン）のパネルが自動生成される

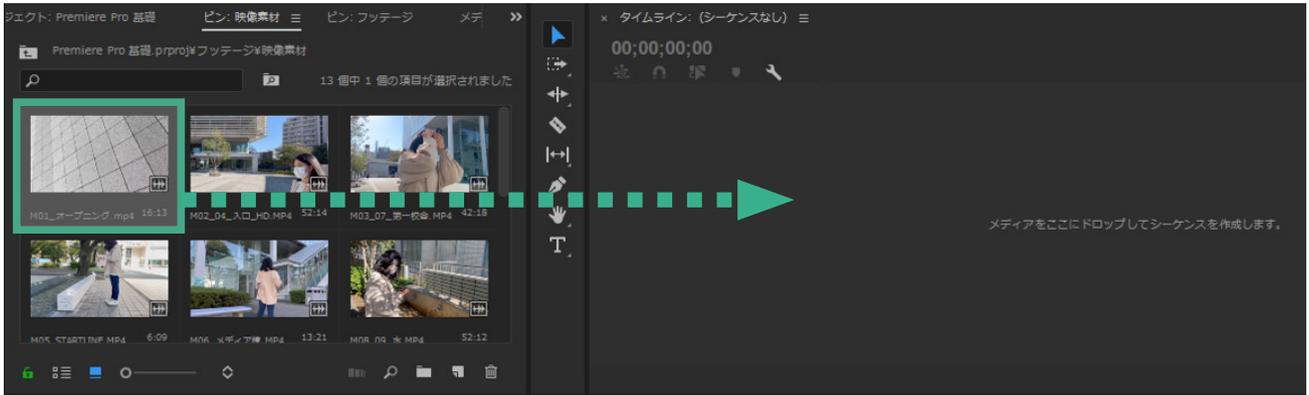


映像素材のビンを表示した画面

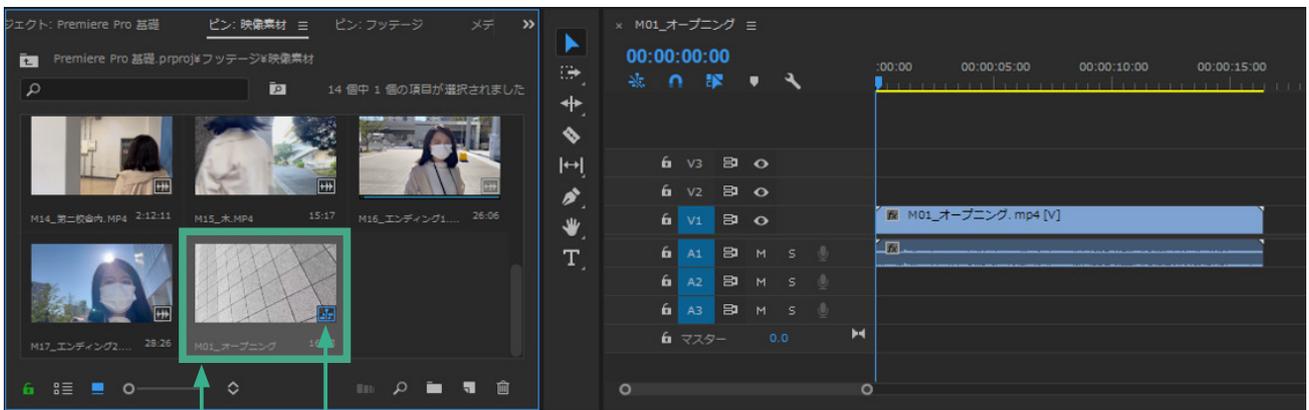
3-2 素材をタイムラインに乗せる

最初の素材をタイムラインに乗せてみましょう。

プロジェクトパネルの中の「M01_ オープニング . mp4」をドラッグ & ドロップします。



タイムラインにシーケンスが自動生成されました。



シーケンス素材 シーケンスを示すアイコン

シーケンスが自動生成されると、プロジェクトパネルにシーケンス素材が作成されます。ひとつのプロジェクトに複数のシーケンスを作成することができます。

名前は最初に乗せた素材の名前が自動でつくようになっています。素材の「M01_ オープニング」と紛らわしくなってしまいますが、シーケンスを示すアイコンで見分けるようにしましょう。

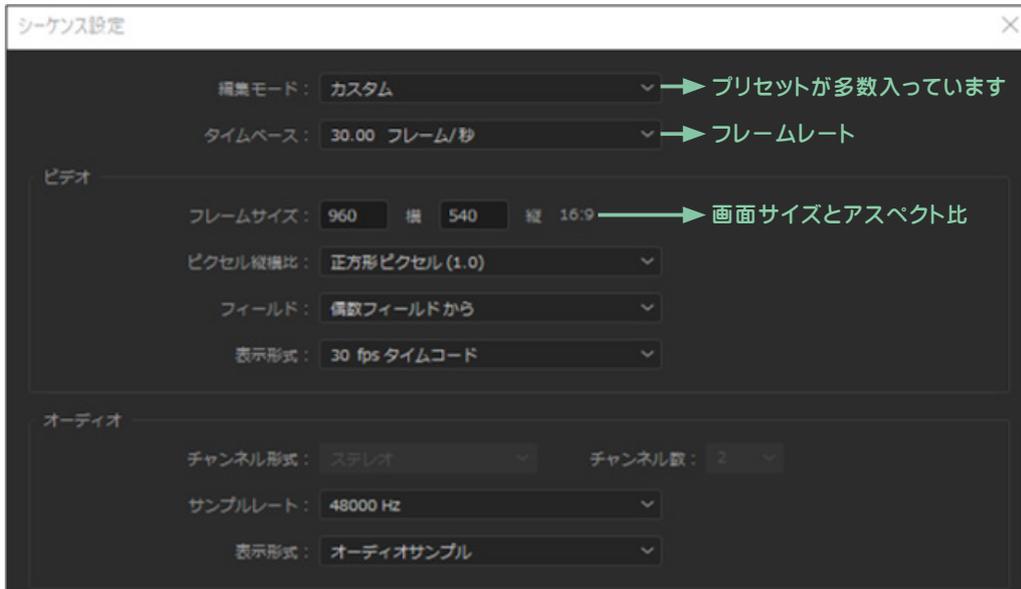
また、名前を変更することができます。シーケンス素材の上で右クリックし、「名前の変更」から変更しましょう。今回は「IZUMI_FOCUS」としました。

シーケンスは素材を並べなくても、メニューバーのファイル→新規→シーケンス から最初に作っておくこともできます。様々な設定があり、用途に合わせて選択します。また、豊富なプリセットが用意されています。

3-3 シーケンス

シーケンスでは、完成する動画の画面サイズやフレームレート（1秒間に表示する画像のコマ数）を設定することができます。シーケンスは自動で作成された後も設定の変更は可能です。シーケンスの設定画面を見てください。

メニューバーのシーケンス→シーケンス設定 をクリックします。



様々な設定がありますが、これらは最初にタイムラインに配置した「M01_オープニング.mp4」の動画設定がそのまま反映されていますので、今回は編集モードが「カスタム」となっています。変更したい場合、ここから変更していくことができます。基本的に覚えておきたいところは、編集モード、タイムベースとフレームサイズです。

【編集モード】プリセットが多数入っています。

【タイムベース】30.00fps（フレーム/秒）の場合、1秒間に30枚（フレーム）の画像で動いていることになります。テレビは29.97fps、映画は23.98fpsとなっています。

【フレームサイズ】画像のサイズとアスペクト比（縦横比）です。

アナログTVは4:3、地デジは16:9、映画は2.35:1です。

シーケンス設定は今回、960横×540縦 16:9 30.00フレーム/秒 で制作していきますので、このまま右下の「キャンセル」をクリックして、シーケンス設定を閉じましょう。

4 プロジェクトファイルの保存・終了・再開

編集作業中のプロジェクトは、随時上書き保存することで不意のトラブルに適應できます。続けて、終了・再開の方法も見ていきましょう。

4-1 保存

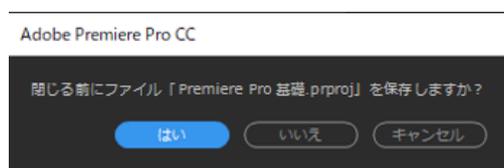
編集作業中のプロジェクトは、随時上書き保存することで不意のトラブルに適應できます。メニューバーのファイル→保存 をクリックしてこまめに保存しましょう。

ショートカットキーはCtrl+S です。

【自動保存】Premiere Proには自動保存機能があります。デフォルトでは15分となっていますが、メニューバー→編集→環境設定で、環境設定画面を開き、「自動保存」タブから変更することができます。

4-2 終了

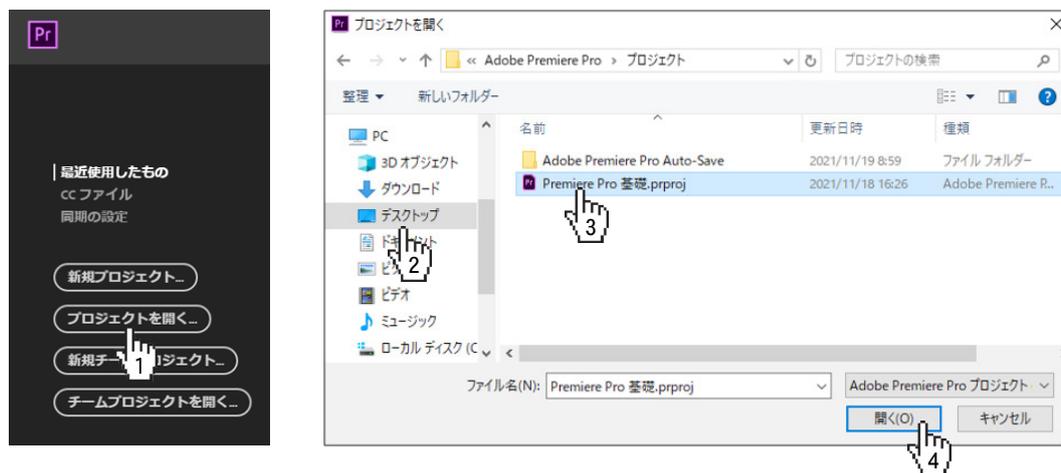
右上の 終了ボタンをクリックします。または、メニューバーのファイル→終了 をクリックします。



保存して終了する場合は、「はい」
保存しない場合は、「いいえ」
終了自体をキャンセルする場合は「キャンセル」

4-2 再開

2.1の方法から「プロジェクトを開く」をクリックするとプロジェクトを開くウインドウが表示されますので、デスクトップ→Adobe Premiere Pro→プロジェクト→Premiere Pro 基礎.prproj を選択し、「開く」をクリックする。



メディアの再リンク

プロジェクトパネルにある素材は、実際に格納されているフォルダとリンクされていますので、素材データの名前や場所が変わってしまうと「オフライン」という状態になり、編集ができなくなってしまいます。

基本的には名前や場所を変更しないようにしますが、もし、オフラインになってしまった場合、再開時にオフラインであるファイルが存在することを通知してくれます。また、「メディアをリンク」というツールを自動的に起動してくれますので、画面に従って、再リンクを行いましょう。

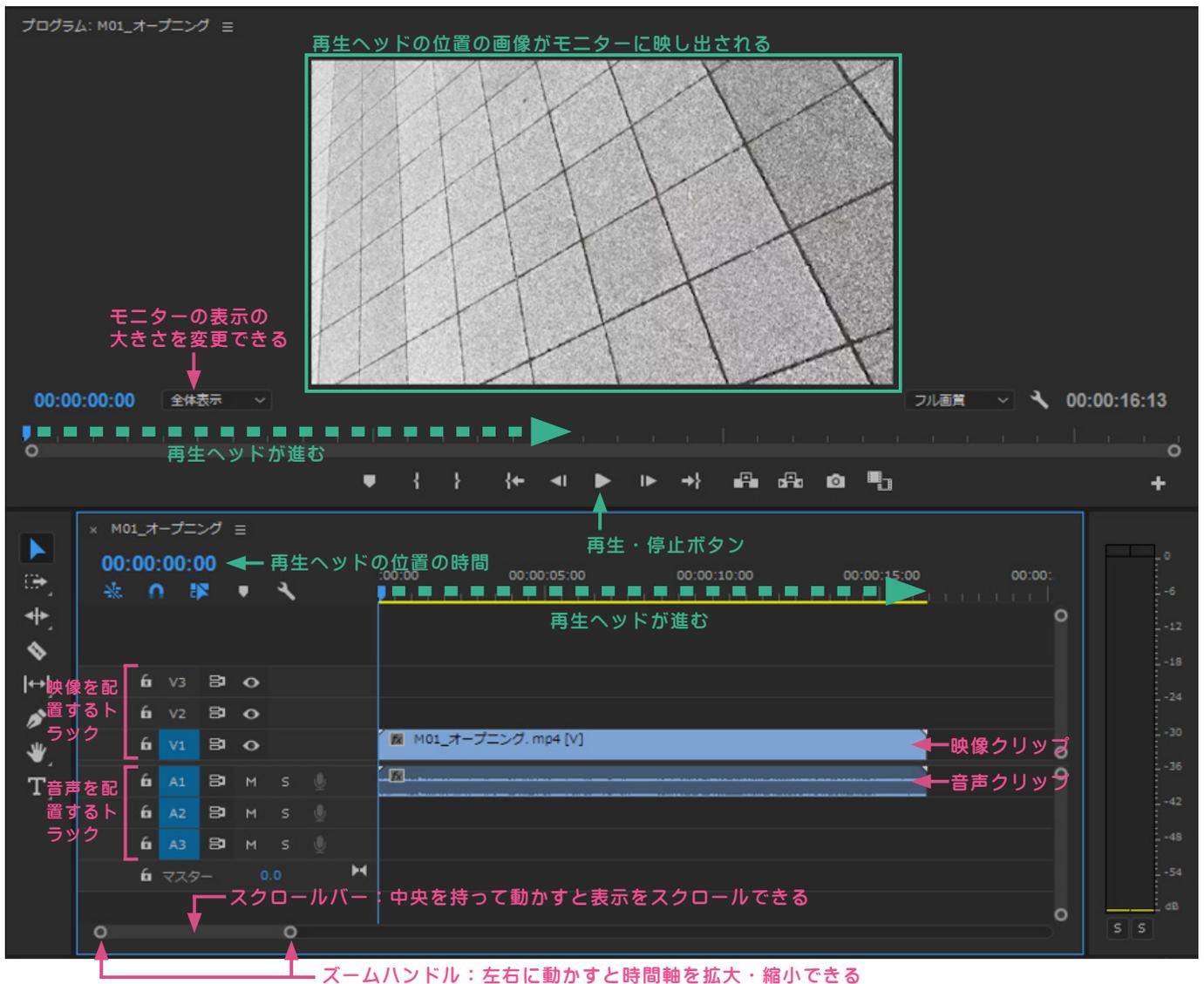
5 編集 再生～トリミングの基本

素材をタイムラインに乗せたら、前後の不要部分を取り除くトリミングという作業を行います。最も基本的な操作を覚えていきましょう。

5-1 タイムラインに並べた素材を再生する～タイムラインとモニターの見方

シーケンスを再生するにはプログラムモニターの再生停止ボタンをクリックすると、プログラムモニターで確認することができます。ショートカットキーは、プログラムモニターかタイムラインパネルが選択され（青い線で囲まれる）、半角英数の状態でスペースキーです。

再生するとタイムラインパネルの再生ヘッドが右に進んでいきます。再生ヘッドのある位置の画像がプログラムモニターに映し出されます。この再生ヘッドはマウスポインタで自由な位置に動かすことができ、動かしたところから再生することが可能です。



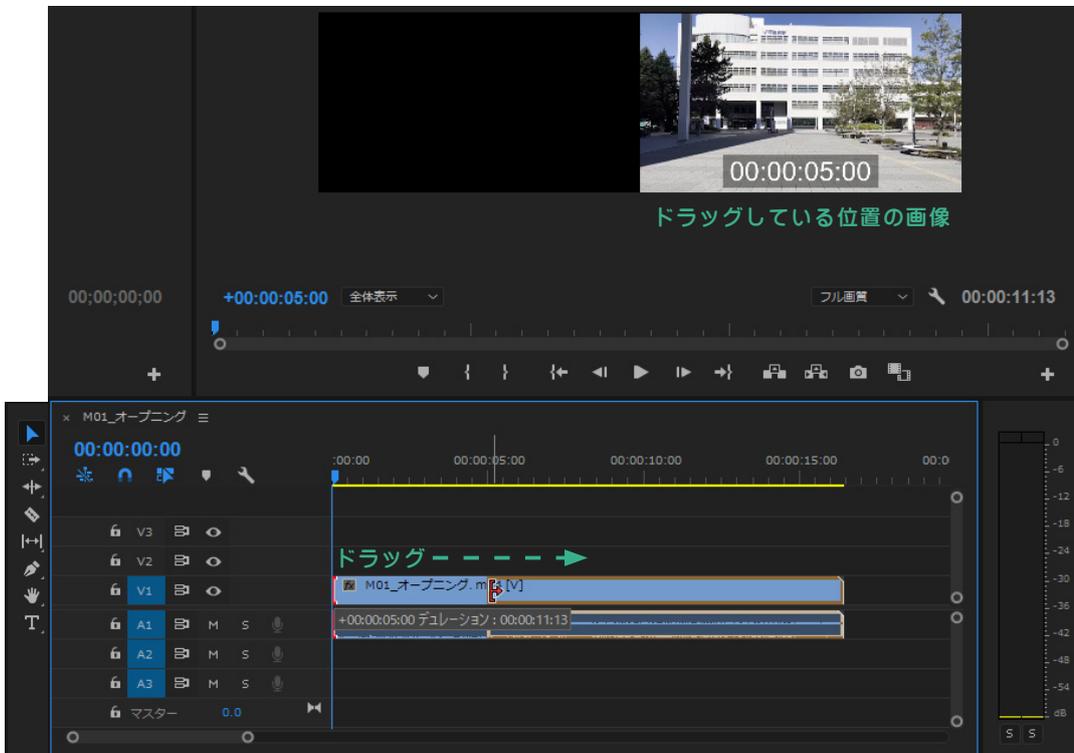
素材はシーケンス上で映像部分と音声部分にトラックをわけて配置されます。「V」がVideoの映像、「A」がAudioの音声です。デフォルトでは「V1・2・3」「A1・2・3」と3トラックずつ用意されていますが増やすこともできます。

また、シーケンスは作業しやすいように拡大・縮小、表示の移動が可能です。スクロールバーとズームハンドルを使い分けて、編集しやすい表示にしましょう。

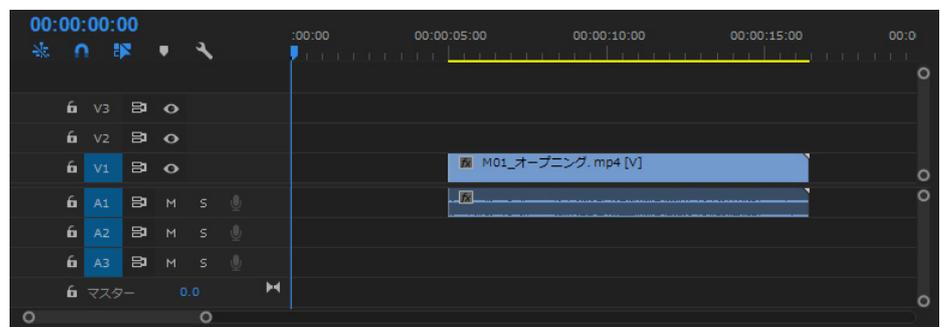
5-2 トリミングの基本（選択ツール）

トリミングとはクリップの前後の不要な部分を取り除くことです。トリミングの基本はツールパネルの選択ツールで行います。（持ち替えのショートカットキーは「V」）

1. ポインタをクリップの先頭部分に持ってくるとポインタの形が  になりますので、右にドラッグしていきます。プログラムモニターではドラッグしている位置の画像が表示されますので、確認しながら、だいたい5秒くらいのところでマウスのドラッグを終了しましょう。

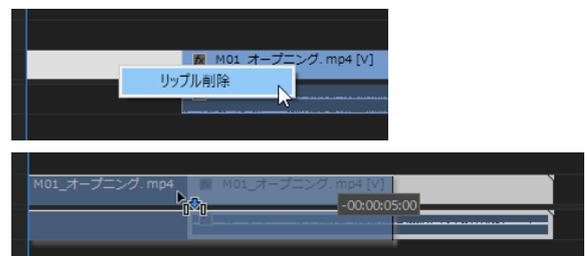


2. クリップが短くなりました。クリップの最初の5秒が空白になります。この空白をギャップと言います。ギャップは背景色の黒で表示されます。

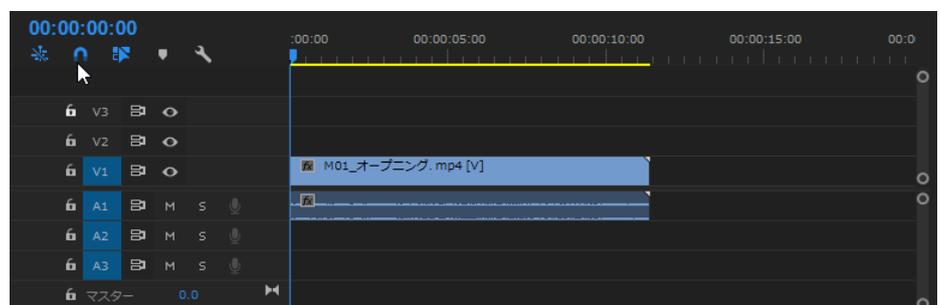


3. ギャップを削除し、クリップがシーケンスの0秒から始まるようにします。ギャップ部分をクリックし、グレーになったところでDeleteキー、または左クリックして「リップル削除」で削除します。

クリップ自体を先頭位置までドラッグ&ドロップしても左に詰めることができます。



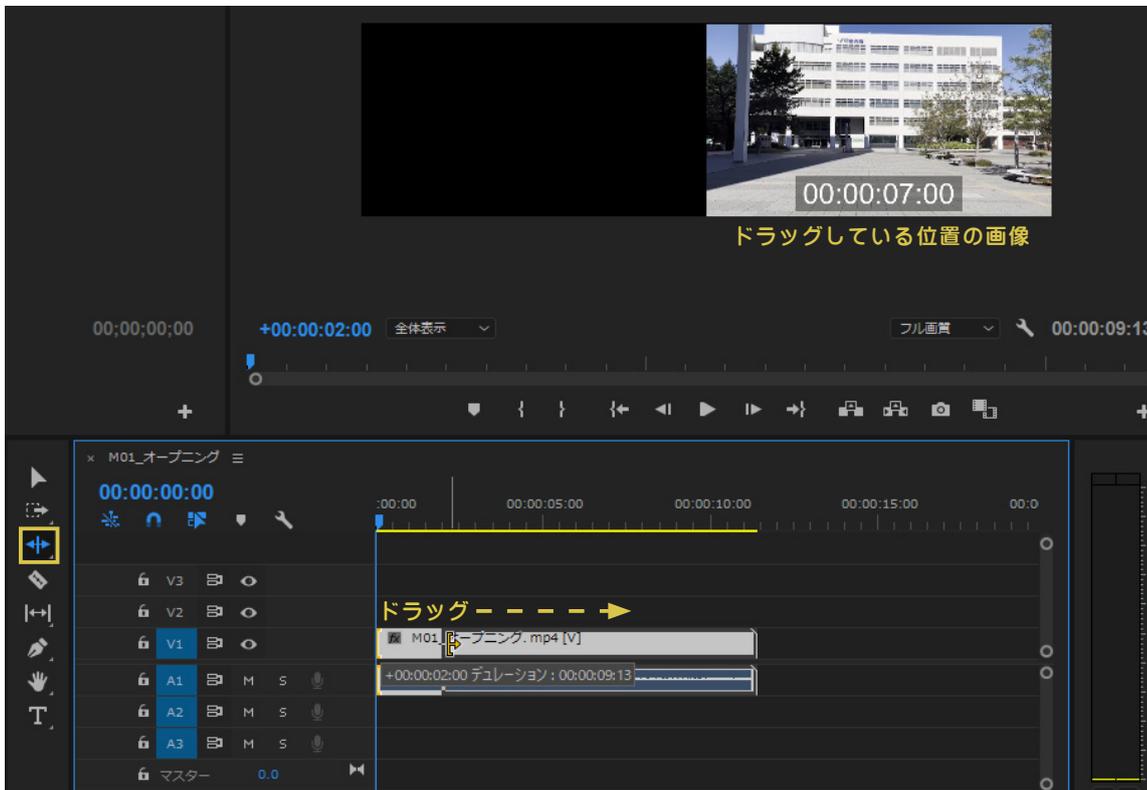
4. ギャップが削除され、クリップが左に詰まりました。



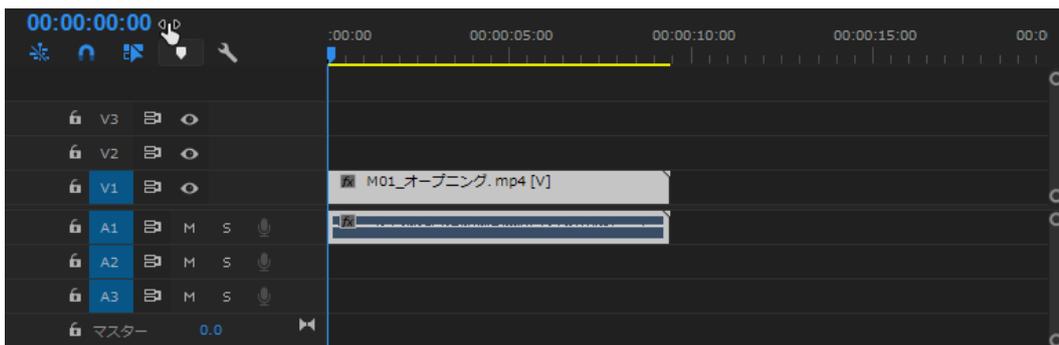
5-3 トリミングの基本（リップルツール）

選択ツールでは、ドラッグ→ギャップの削除（またはクリップを移動）することで左に詰めることができますが、ドラッグした時点で自動的に左に詰めてくれる機能があります。  リップルツールです。（持ち替えのショートカットキーは「B」）

1. ツールパネルから  をクリックして選択します。ポインタをクリップの先頭部分に持ってくるとポインタの形が  になりますので、右にドラッグしていきます。プログラムモニターで確認しながら、今度はだいたい7秒くらいのところでマウスのドラッグを終了しましょう。



2. ドラッグ位置が決まってマウスから指を離れた瞬間、自動的に左に詰まりました。



6 クロスディゾルブとクロスフェード

映像には黒い画面から徐々に映像が現れる効果、音声には徐々に音量が上がっていく効果を付けます。こういった効果をエフェクトと言います。エフェクトの例として「クロスディゾルブ」と「クロスフェード」の使い方を紹介します。

6-1 ワークスペースの変更

クロスディゾルブとクロスフェードはエフェクトパネルからクリップに直接ドラッグする形で適用します。エフェクトをかけるのに適したワークスペースに切り替えます。

画面上、ワークスペースパネルの「エフェクト」をクリックします。

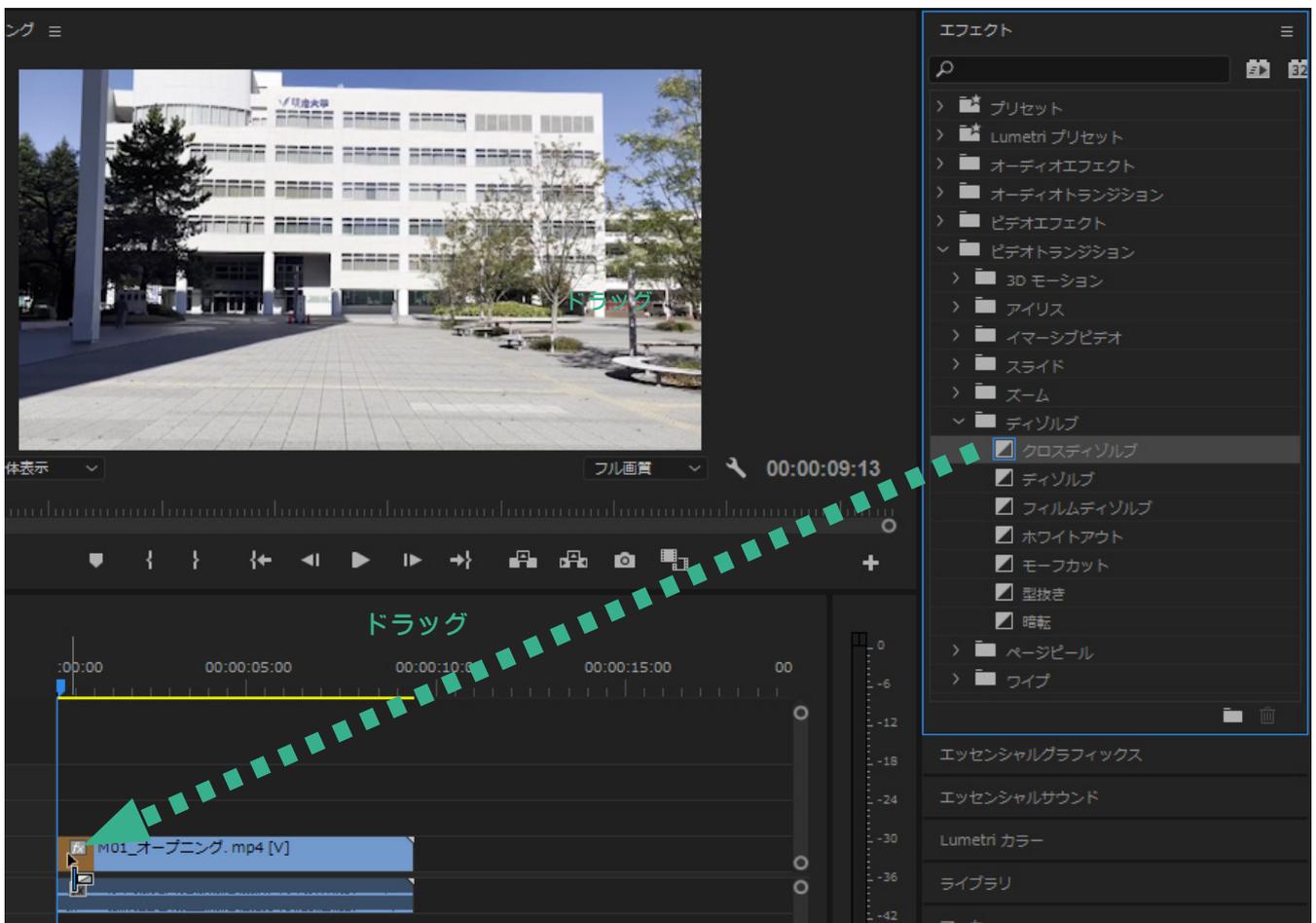


画面右に「エフェクトパネル」が出てきます。豊富なエフェクトが収められています。

6-2 クロスディゾルブ

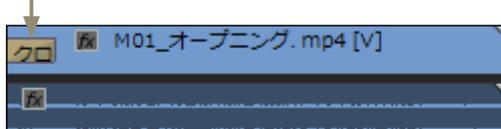
ディゾルブとは溶かすというような意味で、通常はクリップとクリップの間にドラッグし、前のクリップから後ろのクリップに徐々に入れ替わるというエフェクトです。今回はひとつめのクリップの先頭にドラッグし、背景の黒から徐々に映像が現れるようにします。

1. エフェクトパネルのエフェクト→ビデオトランジション→ディゾルブ と右矢印 > をクリックして開いていき、「クロスディゾルブ」をタイムラインのクリップ「M01_オープニング.MP4」の V1 トラック先頭にドラッグします。



クリップの先頭にクロスディゾルブが入りました。

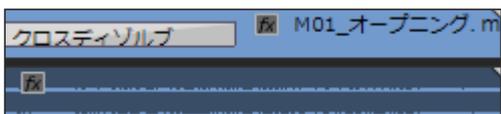
黄色の部分がエフェクトの適用範囲（デュレーション）



2. エフェクトの適用範囲を変更します。ポインタをエフェクトの適用範囲の右端に置くとポインタの形が  になるので、右にドラッグします。



エフェクトの適用範囲が変更されました。



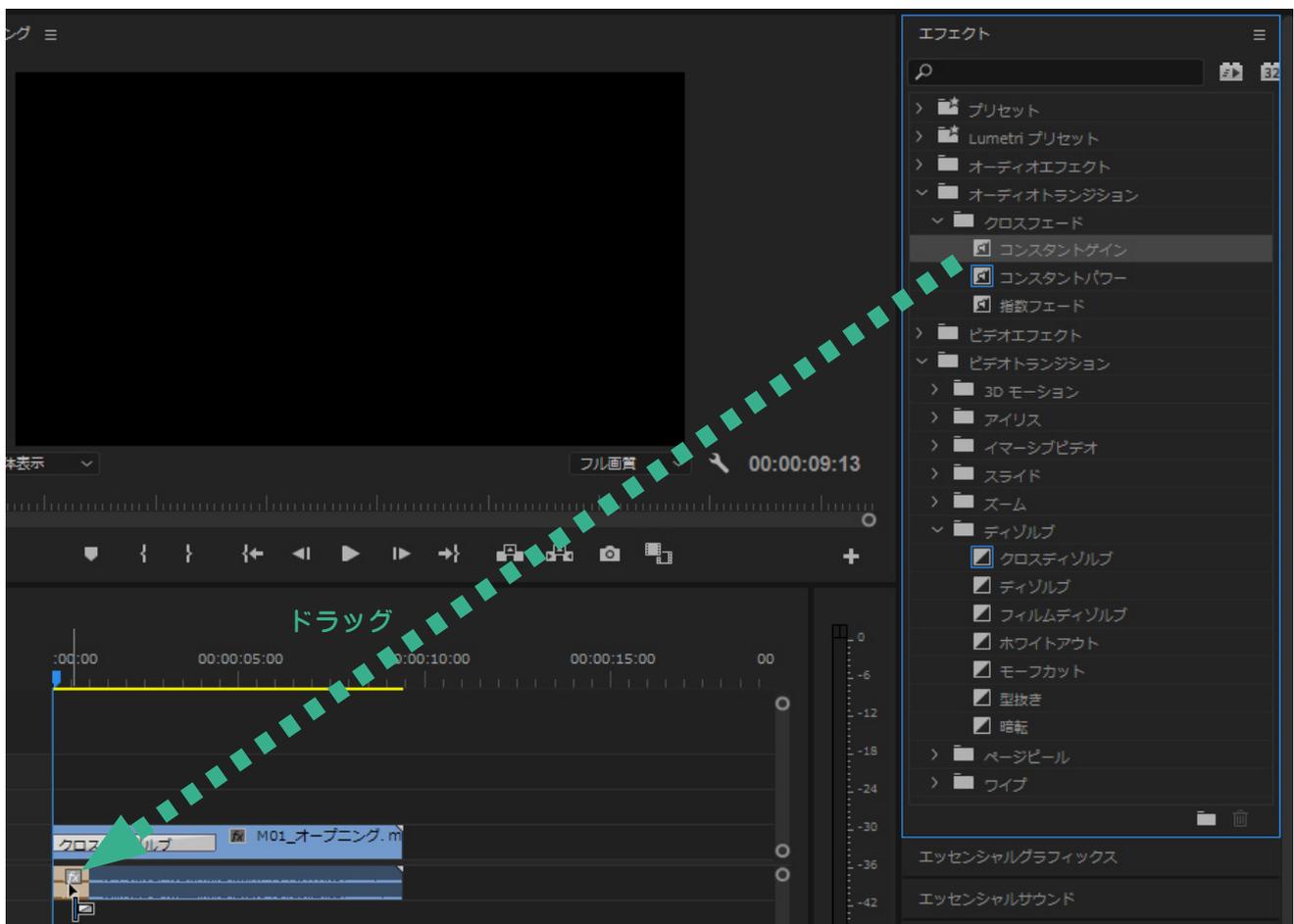
POINT

エフェクトを適用して、実際に見た目がどうなっているのか、タイムラインを再生してプロジェクトパネルで確認するようにしましょう。

6-3 クロスフェード

クロスフェードはクリップとクリップの間にドラッグし、前のクリップは徐々に音量が下がり、後ろのクリップは徐々に音量が上がり、さらに、クリップ間の音声が混ざり合うというエフェクトです。今回はひとつめのクリップの先頭にドラッグし、無音の状態から徐々に音が上がっていくようにします。

1. エフェクトパネルのエフェクト→オーディオトランジション→クロスフェード と右矢印  をクリックして開いていき、「コンスタントゲイン」をタイムラインのクリップ「M01_ オープニング.MP4」の A1 先頭にドラッグします。



クリップの先頭にクロスフェードが入りました。



黄色の部分がエフェクトの適用範囲（テュレーション）

2. エフェクトの適用範囲を変更します。ポインタをエフェクトの適用範囲の右端に置くとポインタの形が  になるので、右にドラッグします。



エフェクトの適用範囲が変更されました。再生してエフェクトのかかり具合を確認しましょう。



TIPS

エフェクトの削除

エフェクトを削除したい場合は、タイムライン上のエフェクトの入っている黄色い部分をクリックし、灰色にしてから Delete キーを押します。



TIPS

3つのクロスフェード

クロスフェードには3種類あります。実際に聞き比べてみましょう。

コンスタントゲイン・・・一定速度で音量が小さくなっていきます。



コンスタントパワー・・・段々音量が小さくなる速さが早くなっていきます。



指数フェード・・・音量が小さくなるスピードが段々遅くなっていきます。



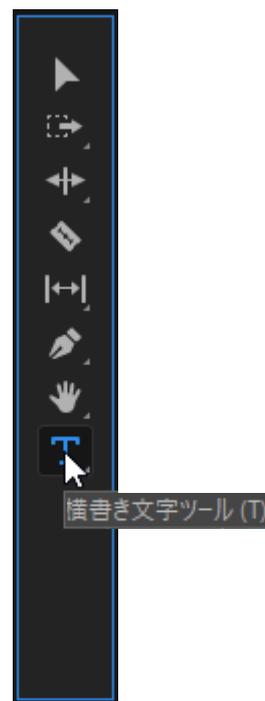
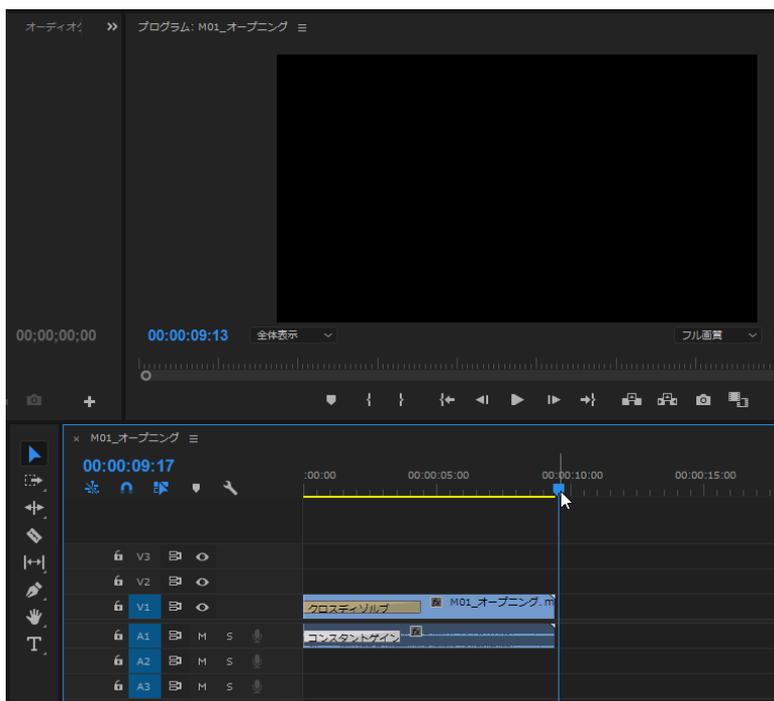
7 タイトルの作成

タイトルの作成方法を学びましょう。Illustratorのようにテキストオブジェクトを配置する感覚です。キーフレームを活かしてアニメーションもつけていきましょう。

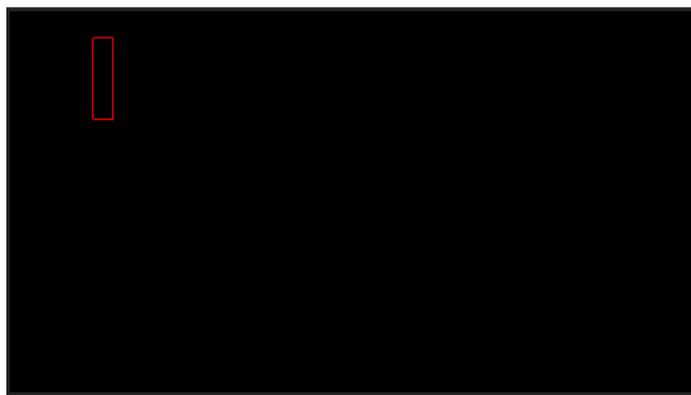
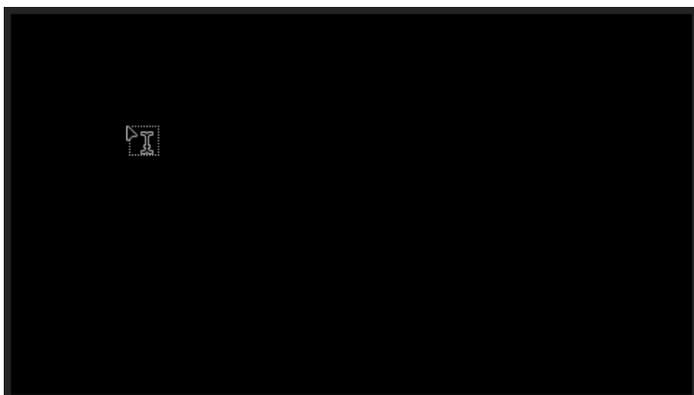
7-1 テキストレイヤーを配置する

ひとつめのクリップが終了した後に、黒い背景画面にテキストが大きくなりながら徐々に現れてくる、というタイトルを作成します。まず、テキストを配置していきます。

1. テキストを出したい時間に再生ヘッドを動かします。今回はひとつめのクリップが終わって、背景が黒画面になったあたりにします。
2. ツールパネルから横書き文字ツールをクリックして選択します。



3. マウスポインタをプログラムパネル上に持ってくると、 になりますので、大体下の画像の位置でクリックします。
4. 赤い四角、テキストレイヤーが配置されました。



5. 半角英数で「Meiji University」と入力します。



7-2 エssenシャルグラフィックス

エssenシャルグラフィックスを使って、テキストのフォント、サイズ、位置を調整します。他にもエssenシャルグラフィックスで出来ることを確認していきましょう。

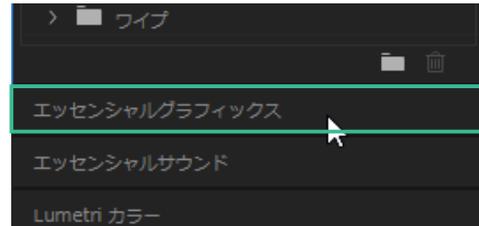
1. 現在テキストは赤い枠で囲まれています、この状態はテキストレイヤーを示す赤枠で、このまま、フォント等を変更しても、「Meiji University」には反映されません。ツールパネルから選択ツールに持ち替えましょう。青い枠になることによってテキストオブジェクト全体が選択され、エssenシャルグラフィックでの変更が適用されます。



↑ 選択ツールに持ち替えることによって青い枠になる。持ち替えのショートカットキーは「V」です。

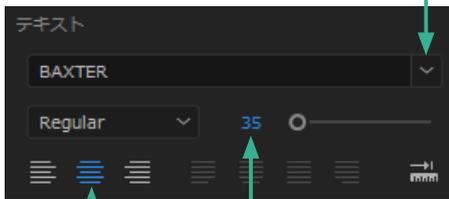


2. 画面左、エフェクトパネルの下のエssenシャルグラフィックスパネルをクリックし、表示させましょう。



3. フォントを「BAXTER」、フォントサイズを「35」に変更し、テキストを中央揃えにします。

このボタンをクリックして一覧の中から「BAXTER」を選択する



↑ 数値をクリックして「35」を入力する。
↑ 中央揃えボタンをクリックする

フォント「BAXTER」が無い方は自分の好きなフォントを選んでみましょう。

5. プログラムモニターで様子を確認しましょう。



4. テキストを画面中央に配置します。「整列と変形」グループの「垂直方向中央」と「水平方向中央」ボタンをクリックします。



↑ 垂直方向中央ボタン
↑ 水平方向中央ボタン

TIPS

いろんなフォントサイズの変更方法

- ・ハンドルをドラッグ



- ・スクラプで調整

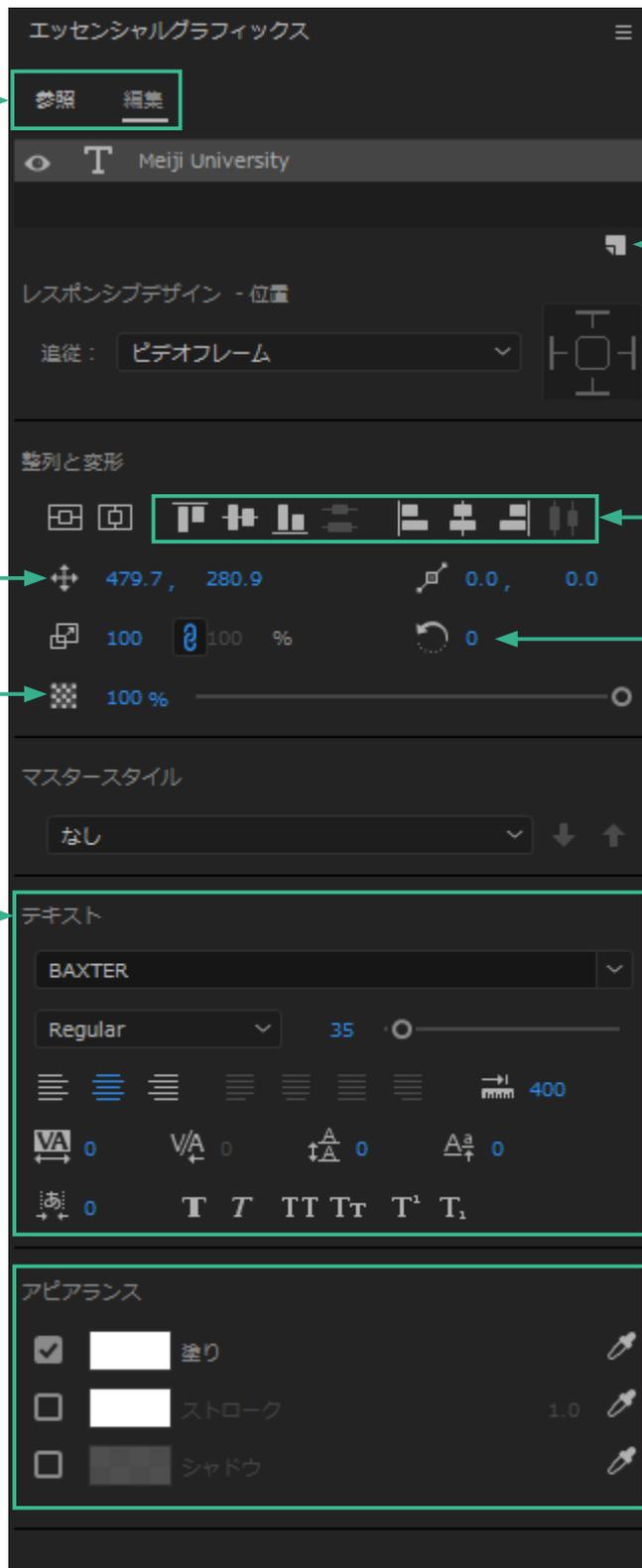


フォントサイズの数値の上で、このポインタの形になったら左右に動かす。

- ・スライダで調整



参照タブには多数のテキストテンプレートが収められています。編集タブで設定の変更をします。



テキストの位置を調整できます。

テキストの透明度を調整できます。

テキスト：
フォント、文字サイズ、文字揃え、カーニング、トラッキング、行間、太字、斜体などを調整できます。

参照 編集

Meiji University

レスポンスデザイン - 位置

追従： ビデオフレーム

整列と変形

479.7, 280.9 0.0, 0.0

100 100 % 0

100 %

マスタースタイル

なし

テキスト

BAXTER

Regular 35

400

0 0 0 0

0 T T TT TT T¹ T₁

アピアランス

塗り

ストローク 1.0

シャドウ

レイヤー

新規レイヤーボタン：一つのテキストクリップに複数のレイヤーを作成できます。

整列：複数のレイヤーを選択し、整列できます。

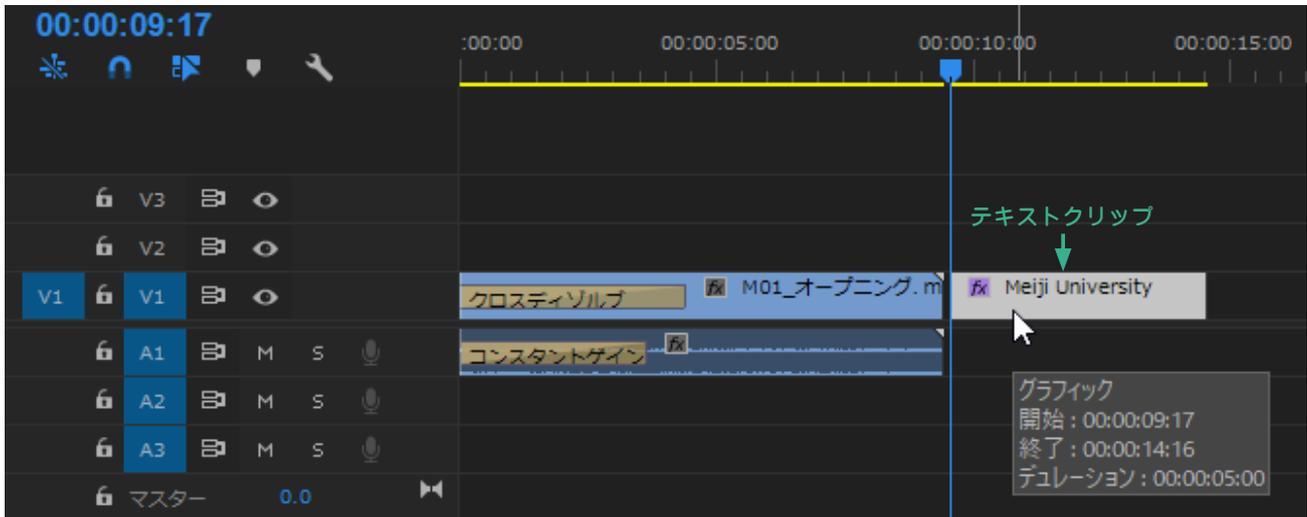
回転：テキストを回転できます。

アピアランス
塗り：文字の色
ストローク：輪郭線
シャドウ：影

7-3 キーフレームを使ってテキストにアニメーションをつける

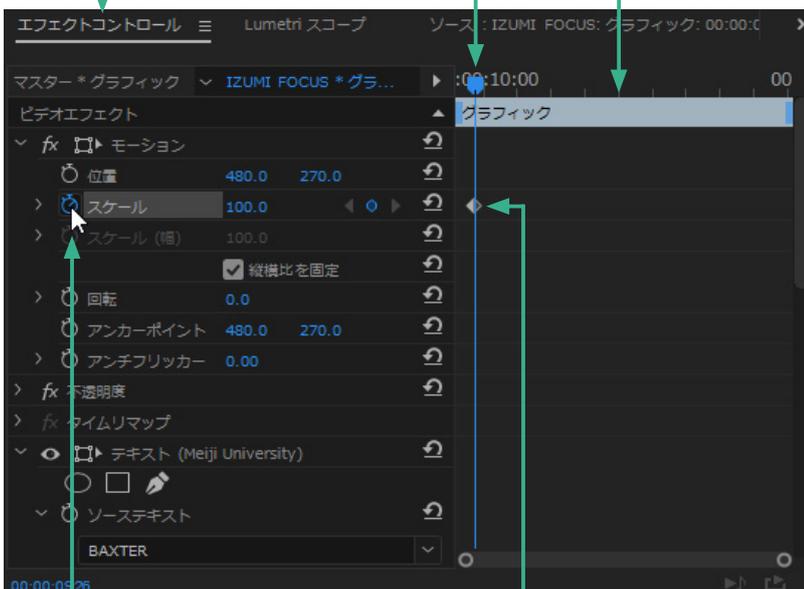
テキストが徐々に大きくなるというアニメーションをつけたいと思います。

1. テキストをプログラムモニターに配置するとタイムライン上に 5 秒間のテキストのクリップが入ります。こちらをまずクリックして選択します。選択した状態のテキストクリップは灰色になります。



2. ソースモニターパネル上のエフェクトコントロールタブをクリックして表示させます。エフェクトコントロールが見当たらない場合は、メニューバー→ウインドウ→エフェクトコントロールをクリックしてください。エフェクトコントロールパネルはモーション（アニメーション）を操作するのに適したパネルです。
3. エフェクトコントロールパネルには、選択したクリップのタイムラインが表示されます。
4. 再生ヘッドをモーションを開始したい時間に合わせます。今回は開始すぐに設定しましょう。
5. 「スケール」の左の時計マークをクリックします。
6. 開始位置のキーフレームが設定されました。

2. エフェクトコントロールを表示
3. 再生ヘッドをモーション開始時間に合わせる
3. 選択したクリップタイムライン



5. 時計ボタンをクリックすることで…… 6. 開始位置のキーフレームが設定される

TIPS

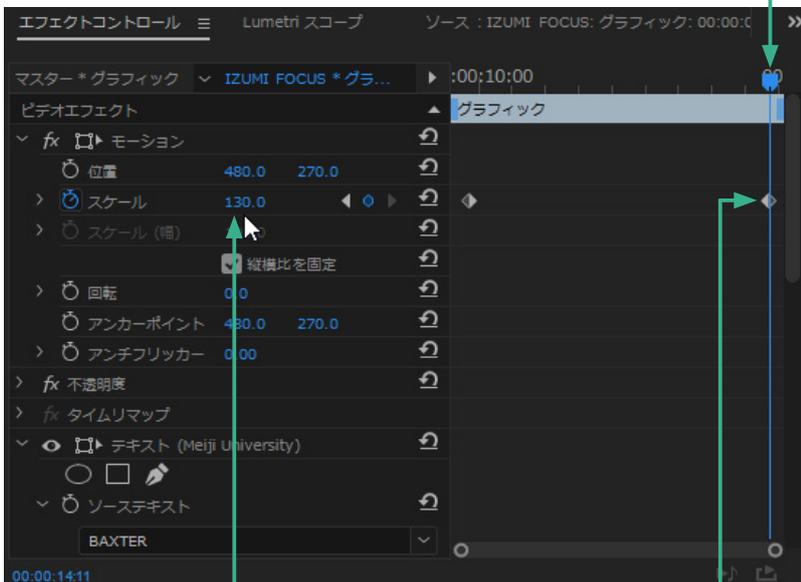
キーフレームアニメーションの **4 step**

- ①再生ヘッドを開始位置へ
- ②時計マークをクリック
- ③再生ヘッドを終了位置へ
- ④数値の変更

4つのステップでスケールだけでなく、色や位置など、様々な効果にモーションをつけることができます。

- 再生ヘッドをモーションを終了したい位置に合わせます。今回は終了間際にします。
- スケールの数値の上でクリックし、今回は「130」と入力し、Enter を押します。
- 終了のキーフレームが設定されました。

7. 再生ヘッドをモーション終了時間に合わせる



TIPS

キーフレームは設定された後でも変更が可能です。ドラッグして位置を変更し、数値を変更することで、効果のタイミングや速度、かかりぐあいを変更できます。

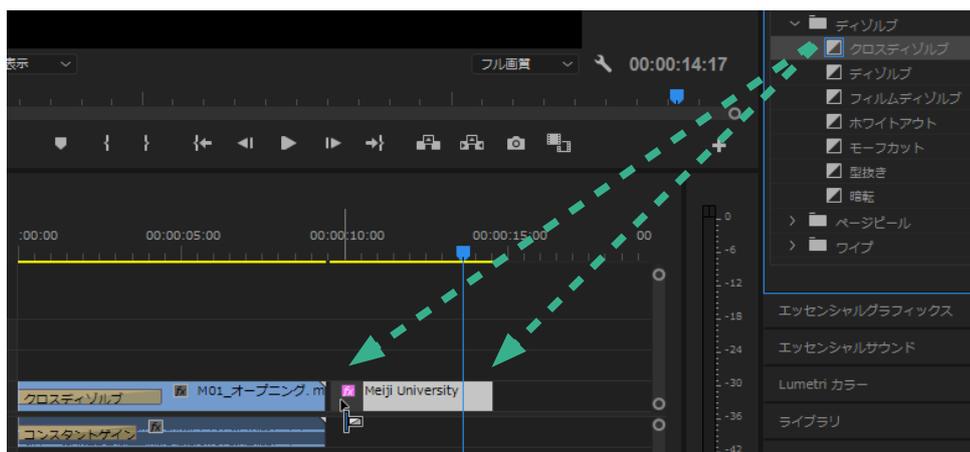
8. 「130」と数値変更することで・・・ 9. 終了位置のキーフレームが設定される

- 再生し、アニメーションの動作を確認します。

7-4 テキストクリップにクロスディゾルブをかける

動画クリップと同様に、テキストにも徐々に文字が現れるクロスディゾルブを適用することができます。適用方法は動画と同じです。クリップの前後に適用しましょう。

- テキストクリップの先頭と最後にクロスディゾルブをドラッグし、適用します。



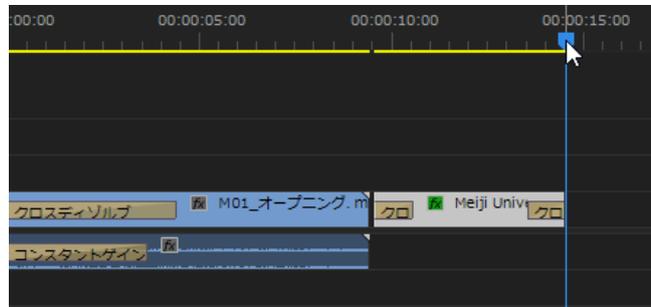
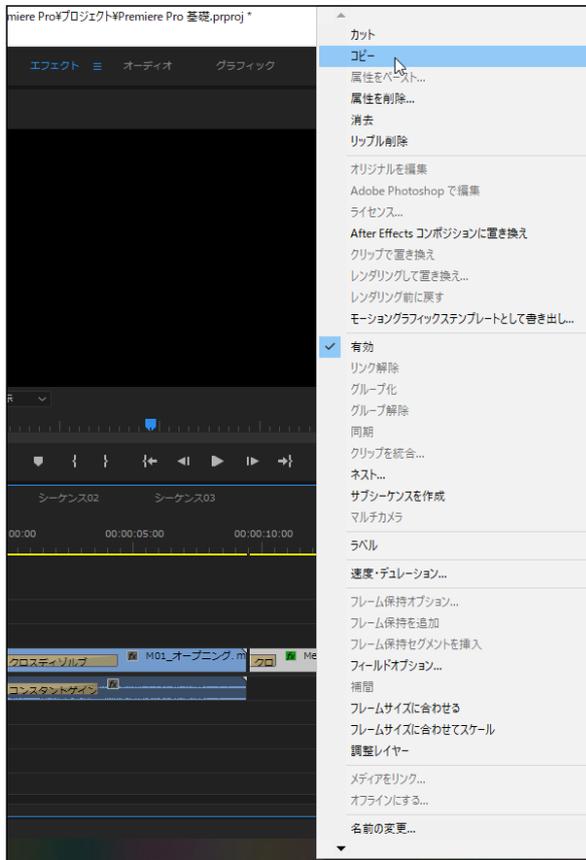
TIPS

クロスディゾルブはクリップの先頭に入れると徐々に「現われる」効果、最後に入れると徐々に「消えていく」効果を自動的に適用してくれます。

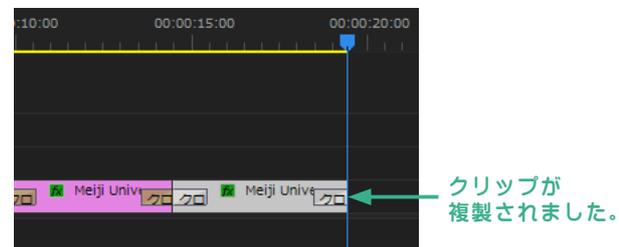
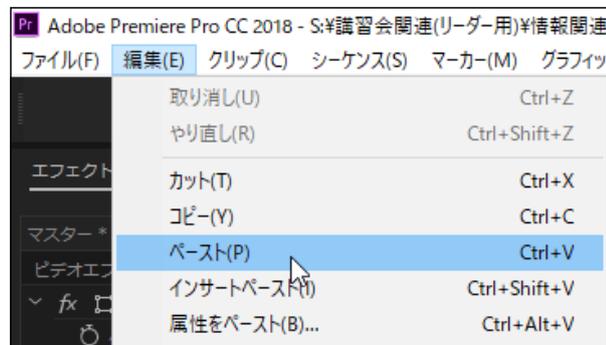
7-5 テキストクリップをコピー&ペーストする

同じ効果を持ったテキストを作成するとき、再びエフェクト等の設定を適用していくのは大変ですので、テキストクリップをコピー&ペーストします。

1. タイムラインのテキストクリップの上で右クリックし、「コピー」をクリックします。
2. 再生ヘッドをコピーしたいクリップの再生位置に動かします。今回はコピーしたクリップのすぐ後ろです。



3. メニューバーから編集→ペースト をクリックします。



4. テキストを入力していきます。コピーしたテキストの上に再生ヘッドを持ってきて、プログラムモニター上のテキストをダブルクリックします。
5. 半角英数で「Izumi Campus」と入力します。



赤い網掛けの状態

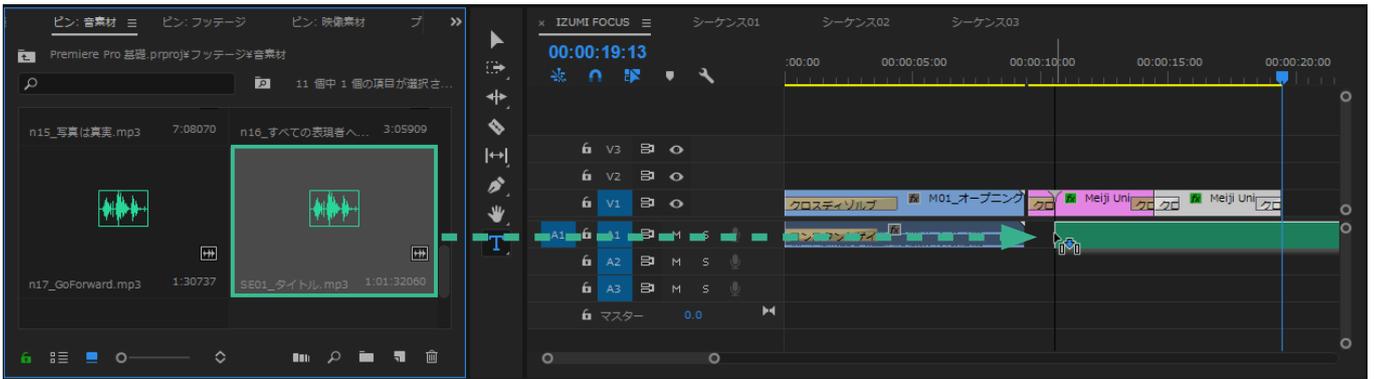


TIPS

テキストを確定し、青い枠にしたいと思って、「Enter」キーを押すと改行されてしまいます。青い枠にするには、「選択」ツールに持ち替えましょう。

7-6 タイトルにSE（サウンドエフェクト）をつける

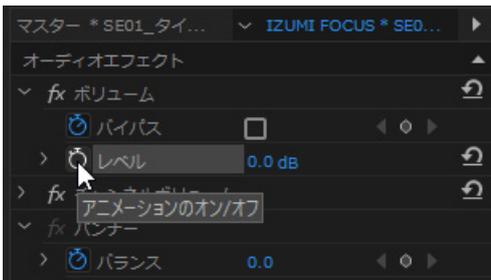
1. 音素材の中の「SE01_タイトル.mp3」をA1トラックに配置します。テキストクリップ「Meiji University」の前のクロスフェードが終了するあたりに先頭を合わせましょう。



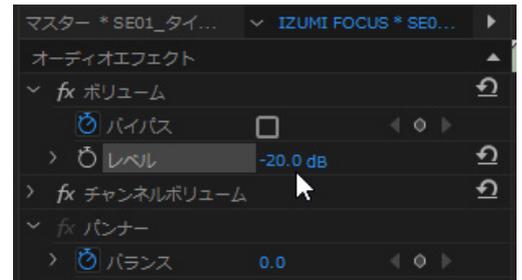
7-7 SE のボリュームレベルを下げる

1. タイムラインのSEクリップを選択した状態で、エフェクトコントロールパネルのボリュームの中のレベルの横にある 時計アイコンをクリックしてアニメーションをOFFにします。

2. 「レベル」の横の数値の上でクリックし、-20と入力して「Enter」キーを押しましょう。



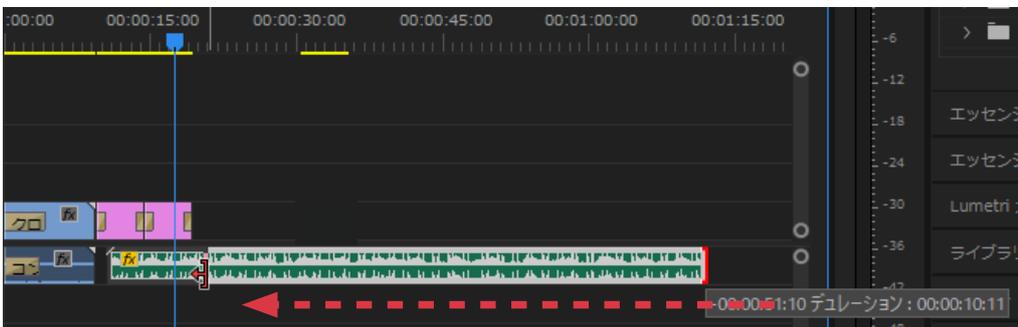
ONの状態のままだとレベルを変更したときに自動でキーフレームがついてしまいます。ここでは全体の音量を下げたいのでOFFにしましょう。



再生して音量が下がったことを確認しましょう。

7-8 SE の長さを調整し、クロスフェードをかける

1. SEをトリミングして、長さを調整します。大体、「Izumi Campus」が終了した後からはみ出るくらいの長さに短くしておきましょう。



7-9 SE にクロスフェードをかける

1. 徐々に音が小さくなるように「コンスタントゲイン」をSEの後ろにかけましょう。



8 イン点～アウト点

ソースモニターパネルであらかじめ配置する時間幅を決めてからタイムラインに乗せていく方法があります。また、さまざまなトリミング方法を紹介します。

8-1 イン点・アウト点

素材をソースモニターに映し出し、イン点（開始位置）とアウト点（終了位置）をあらかじめ決めてからタイムラインに配置する方法を学びましょう。

1. プロジェクトパネルから「M04_入口_HD.mp4」をダブルクリックするとソースモニターパネルに素材が映し出されます。
2. ソースモニターの再生ヘッドを開始位置（ここでは大体 09:02 あたり）に持ってきて  イン点ボタンをクリックします。
3. ソースモニターの再生ヘッドを終了位置（ここでは大体 21:01 あたり）に持ってきて  アウト点ボタンをクリックします。



イン点ボタン

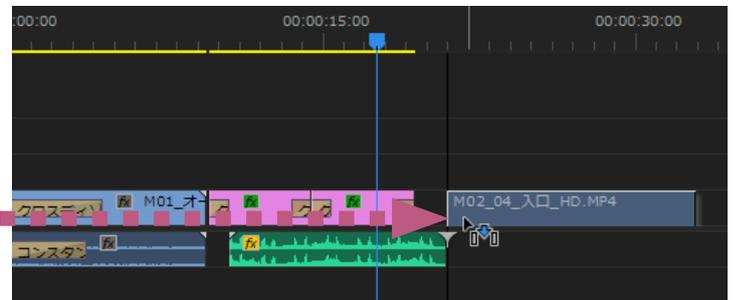


アウト点ボタン

3. 今回はこのクリップの音声は使いませんので、 「ビデオのみドラッグ」を掴んで、タイムラインの配置した場所にドラッグします。



今回はタイトルの SE が終了したあたりに配置します。



TIPS

音声だけを配置したい場合

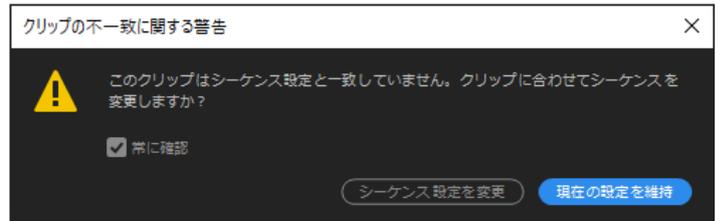
 オーディオのみドラッグボタンを掴んでタイムラインに配置します。

映像と音声どちらも一緒に配置したい場合

ソースモニターの画面部分を掴んでタイムラインに配置します。

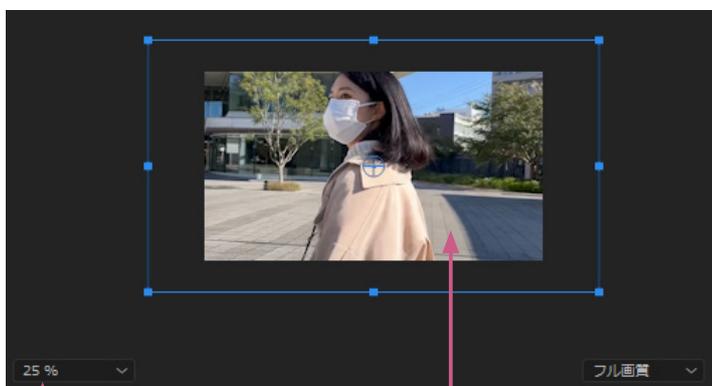
8-2 シーケンスの画面サイズとクリップのサイズが異なる場合

※ このシーケンスの画面サイズは 960 × 540 です。しかし、「M02_04_ 入口 _HD. mp4」は 1280 × 720 です。サイズの異なるクリップを配置すると警告が出てることがありますが、ここは 960 × 540 で作成しますので、「現在の設定を維持」をクリックしましょう。



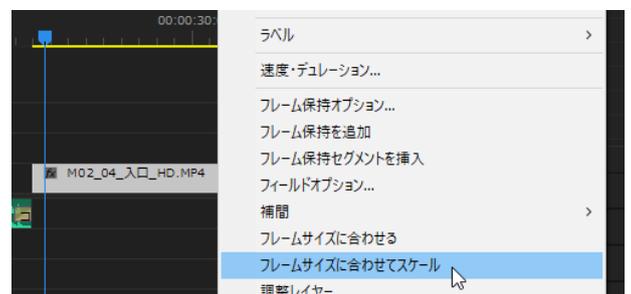
シーケンスで設定した画面サイズより大きいサイズのクリップを配置すると、実際の画面より狭く表示されてしまいます。画面サイズを合わせていきましょう。

1. プログラムモニターの画面表示を 25% にして画面上でダブルクリックしましょう。青い枠が 1280 × 720 であるこの素材のサイズです。表示されている部分が 960 × 540 です。はみ出て、見えない部分が出てしまっています。
2. タイムラインのクリップ上で右クリックし、「フレームサイズに合わせてスケール」をクリックします。

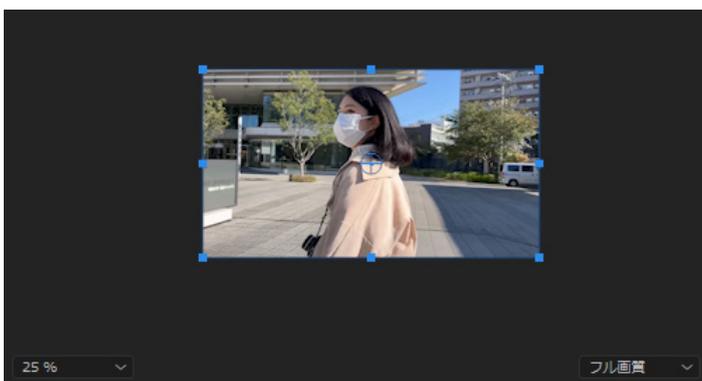


表示サイズを 25% にする

画面上でダブルクリックする



3. 960 × 540 に収まりました。

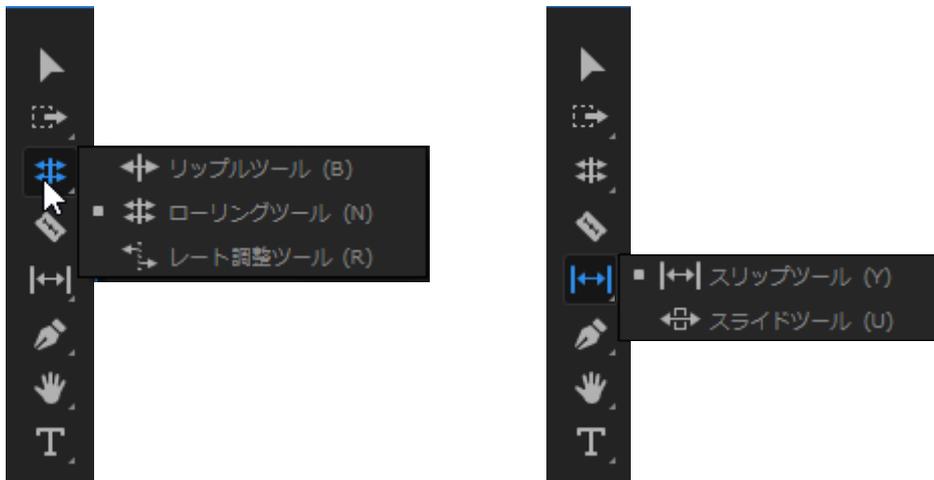


付録： いろんなトリミング

選択ツールとリップルツールについてはご紹介しましたが、その他にも便利なトリミングツールがあります。

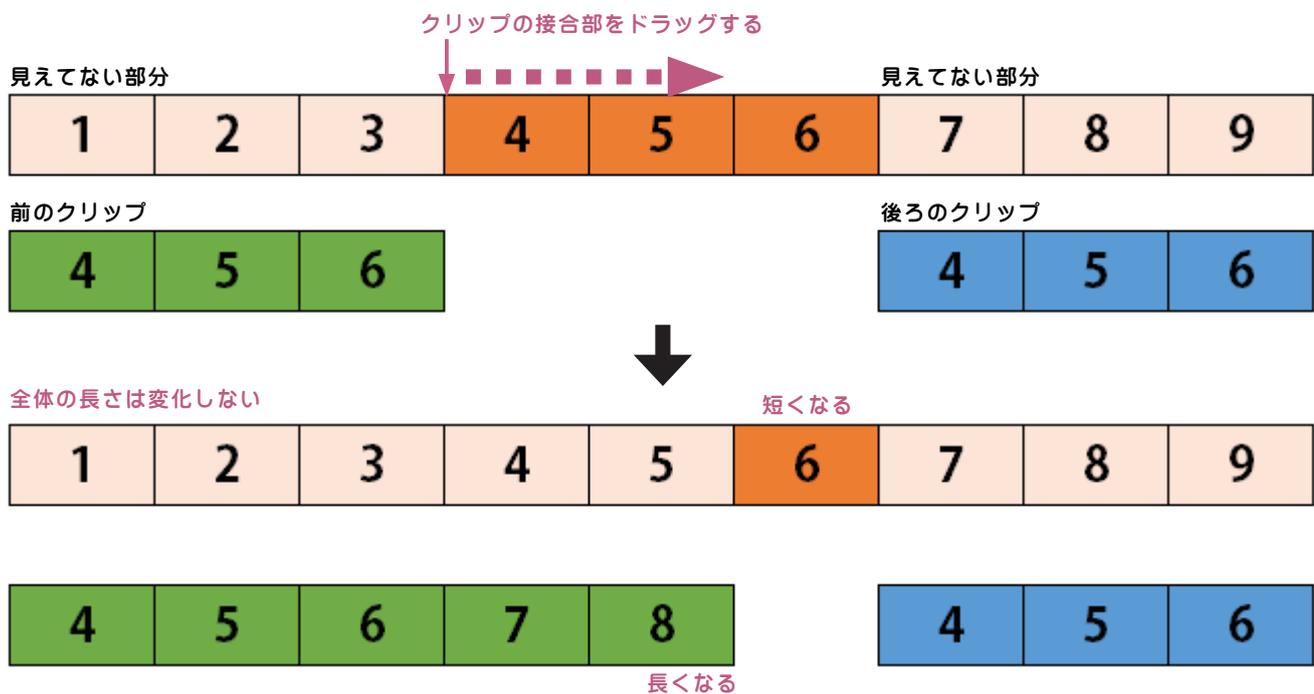
■ 各ツールの場所

各ツールへの持ち替えは、ツールパネルでまたはショートカットキーで行います。



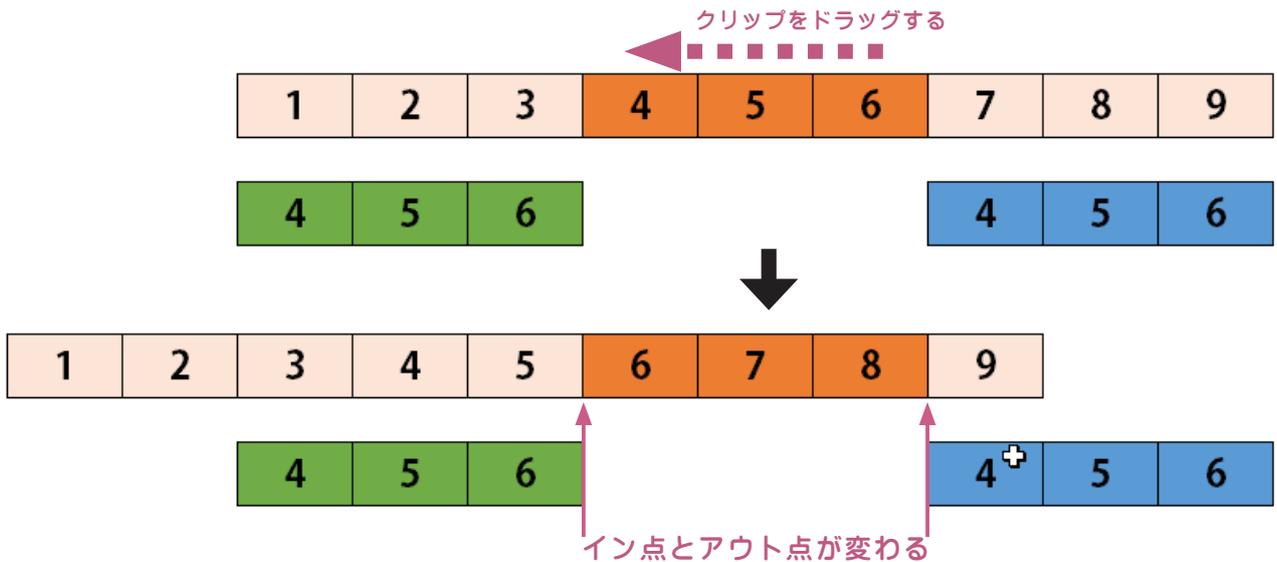
■ ローリングツール (ショートカットキー：N)

編集対象の長さを変更すると同時に、前のクリップのアウト点と後ろのクリップのイン点を変更します。クリップ全体の長さは変化しません。



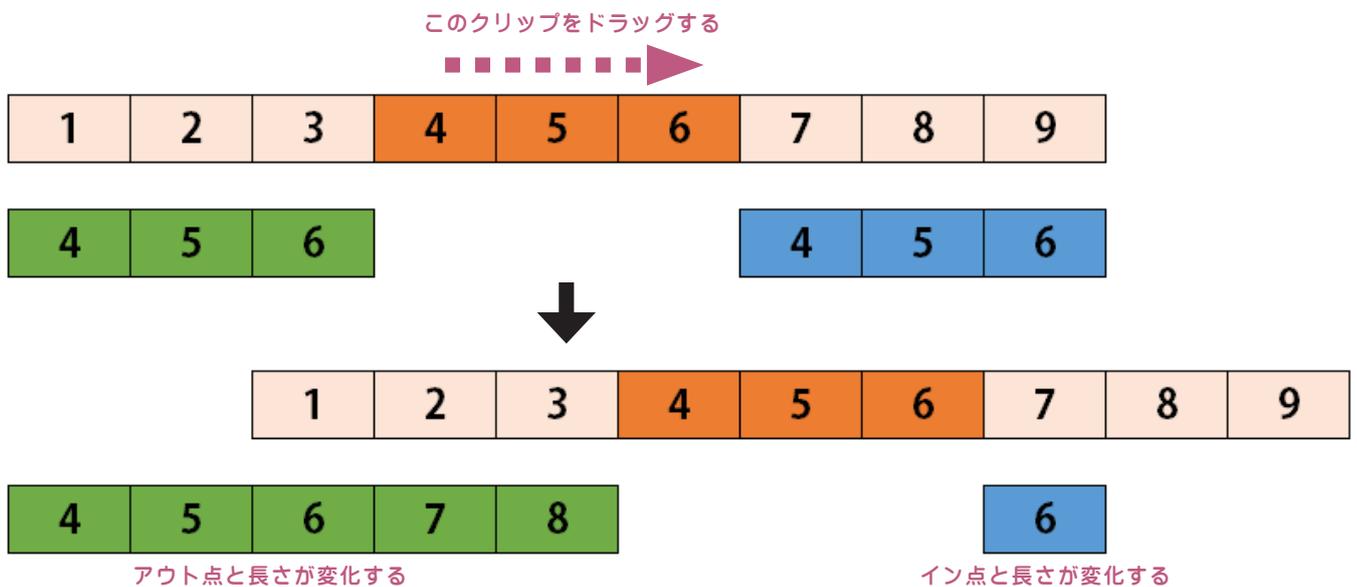
■ スリップツール（ショートカットキー：Y）

トリミングするクリップの長さを変えずにイン点とアウト点を同時に変更します。クリップ全体の長さは変化しません。



■ スライドツール（ショートカットキー：U）

対象のクリップのイン点アウト点は変化しないが、前後のクリップのイン点アウト点は長さを保ったまま変化する。クリップ全体の長さは変化しません。

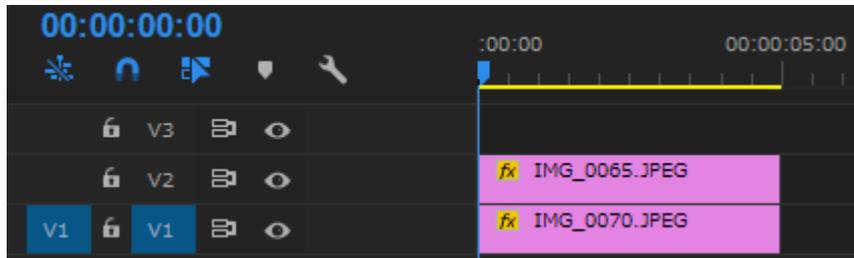


付録： ピクチャー・イン・ピクチャー

画像の中に画像を配置することをピクチャー・イン・ピクチャーといいます。

1. 画像を二枚重なるように配置します。

下のようクリップが配置されている場合、



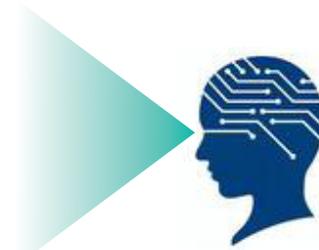
V1トラックの画像はV2トラックの画像の奥にあると考えます。上のトラックの画像が手前に見えています。



V1トラックの画像

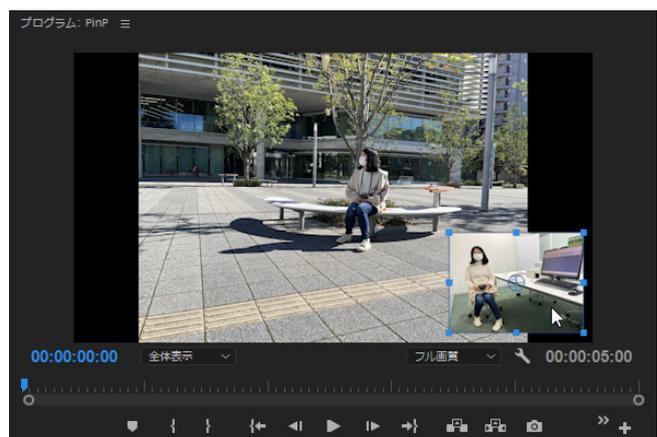
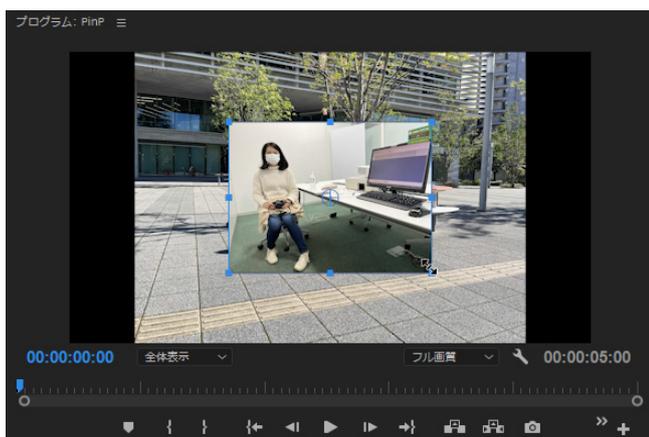


V2トラックの画像



2. プログラムモニター上でダブルクリックし、青い枠線にした状態で、青い点の部分ドラッグし、サイズを変更します。

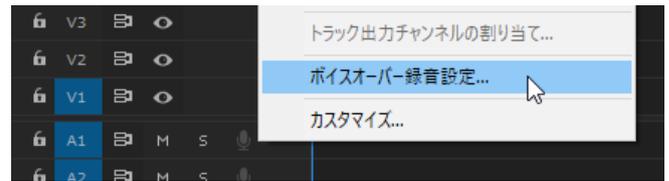
3. 選択ツールで画像をドラッグすると、位置を変更することができます。



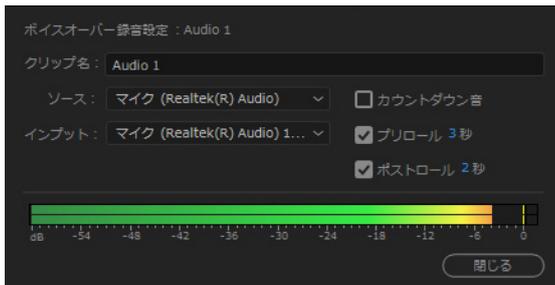
付録：トラックにナレーションを録音する（ボイスオーバー録音）

Premiere Proでは、他の録音ソフトを使わなくても、トラックに直接録音するボイスオーバー録音機能があります。

1. タイムラインパネルの録音したいオーディオトラックのマイクボタンの上で右クリックし、ボイスオーバー録音設定を選択します。

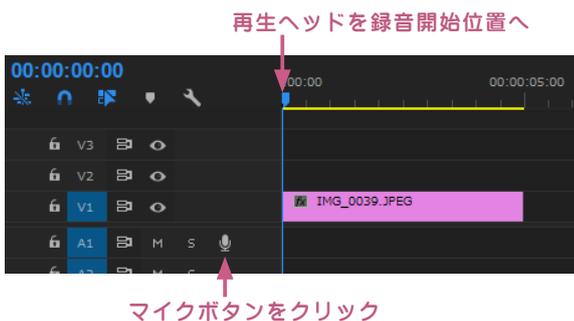


2. 各種設定を確認し、閉じるをクリックします。ソースが「入力なし」になっていると録音が始まりません。



クリップ名：音声ファイルの名前
ソース：出力機器名
インプット：マイクのチャンネル
プリロール：カウントダウンの時間

3. 再生ヘッドを録音を始めた場所に移動し、録音したいオーディオトラックのマイクボタンをクリックすると、カウントダウンが始まり、録音が始まります。



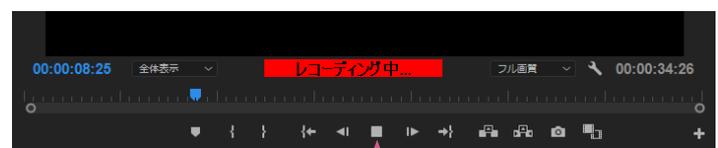
再生ヘッドを録音開始位置へ

マイクボタンをクリック



カウントダウン

4. 録音の停止はスペースキー、プログラムモニターパネルの停止ボタン、またはマイクボタンです。



停止ボタン

5. 録音を停止すると、V1トラックにオーディオクリップが自動生成されます。



← 今録音したオーディオクリップ

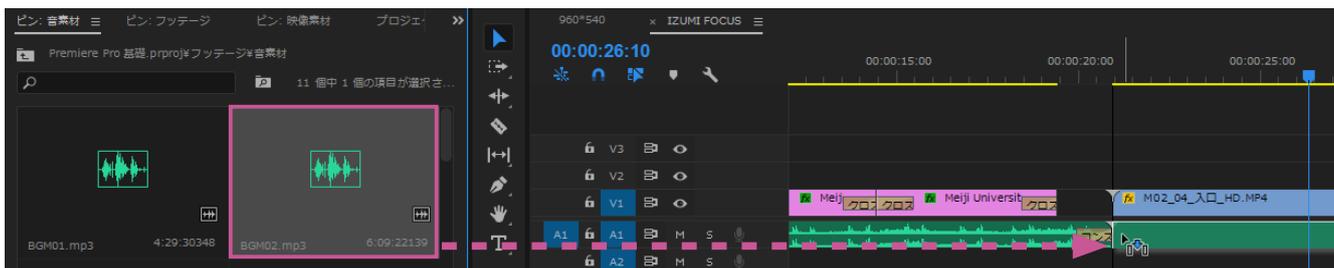
9 BGM・ナレーション・レターボックス・字幕・静止画

タイトルの後の「M02」クリップから BGM とナレーションが始まるようにします。また、長方形ツールを使ってレターボックスを作成し、字幕を入れていきます。静止画も挿入します。

9-1 BGM を配置する

BGM を配置していきます。BGM は音素材の中に入っています。

1. 音素材の中にある「BGM_01. mp3」と「BGM_02. mp3」をダブルクリックしてソースモニターパネルに波形を映し出します。再生をして聞いてみて、好きな方を選びます。ここでは、「BGM_02. mp3」で説明していきます。
2. 「BGM_02. mp3」をタイムライン上「M02_04_入り口_HD. mp4」の開始位置と同じになるようにドラッグし、配置します。配置するトラックは「A1」です。（「A」は音声クリップ、「V」には映像クリップを並べます。）



TIPS

スナップ機能を活用する

既にお気づきの方も多いと思いますが、クリップを配置する際に、隣のクリップや上下のトラックにあるクリップの開始位置と終了位置、再生ヘッドの青い線にピタッとくっつく感覚を持たれたと思います。これをスナップ機能といいます。クリップ同士を近づけるだけで、磁石のように引き付けあってピタッとくっついてくれる便利な機能です。ON/OFF の切り替えはタイムラインパネルの時間表示の下、磁石のアイコンをクリックしましょう。

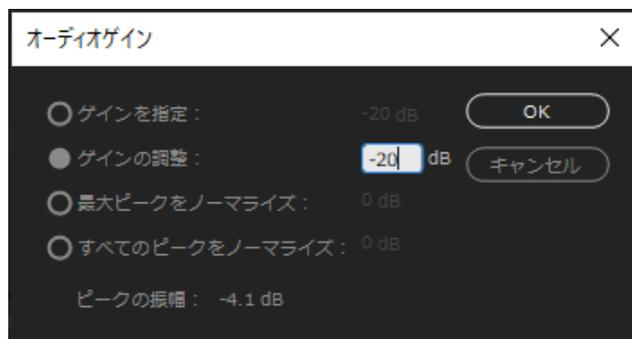


ピタッとくっつくと「ろうと」のようなアイコンが表示されます。

3. SE はエフェクトコントロールパネルの「ボリュームレベル」で音量を調整しましたが、ここではもうひとつ音量の調整方法を紹介します。「BGM_02. mp3」の音量を調整します。クリップの上で右クリックし、「オーディオゲイン」を選択します。



4. ゲインの調整の数値の上でクリックし、「-20」と入力してOKします。

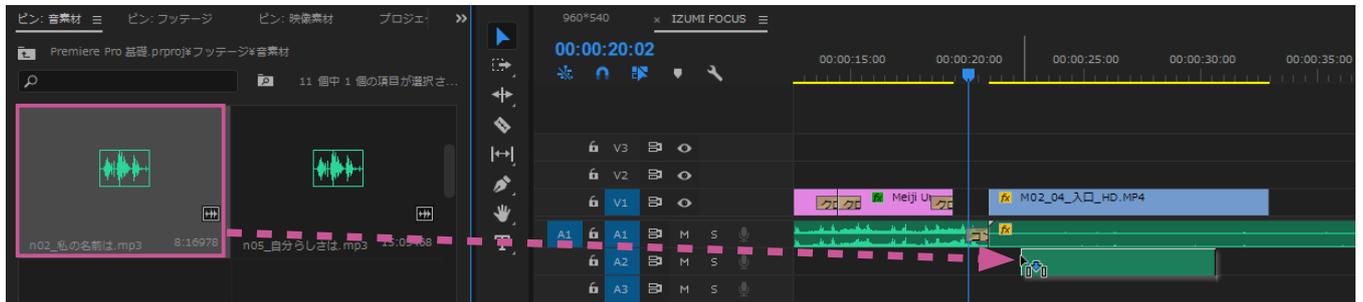


5. 再生して音量が下がったことを確認しましょう。

9-2 ナレーションを配置する

ナレーションを配置していきます。ナレーションは音素材の中に入っています。

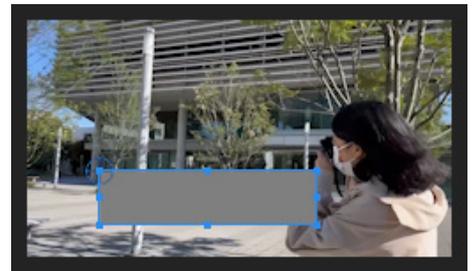
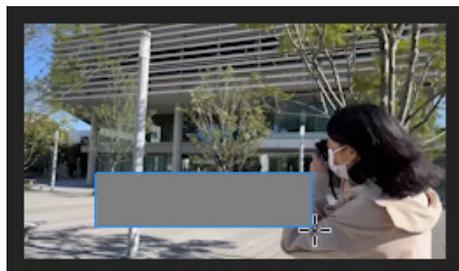
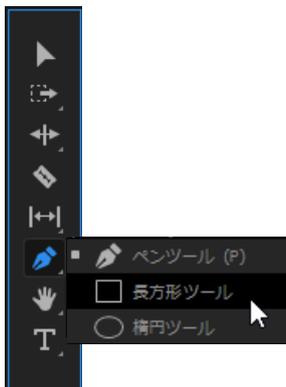
1. 音素材の中にある「n02_私の名前は.mp3」をタイムライン上「M02_04_入り口_HD.mp4」が始まって大体2秒くらい経過したあたり配置します。配置するトラックは「A2」です。



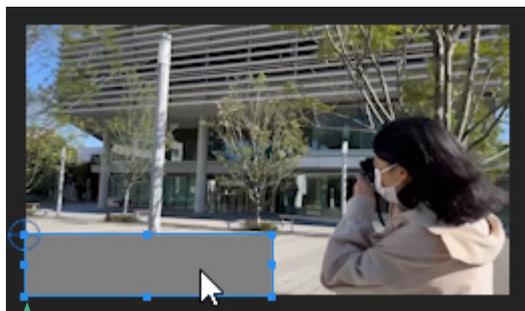
9-3 レターボックスを作成する

レターボックスとは、画面上下に黒帯を追加したものです。シネスコをTVで見るときなどに使われています。タイムラインに乗せたクリップの上下をクロップ（上下左右の切り落とし）することでもできますが、ここでは長方形ツールを使って黒い四角を画面上下に配置していきます。

1. ツールパネルのペンツールのグループから長方形ツールを選択します。
2. ポインタをプログラムパネルモニターパネル上に持ってくると十字の形になるので、ドラッグして四角形を作ります。
3. 選択ツールに持ち替えます。すると、四角い青枠に青い点が付きます。

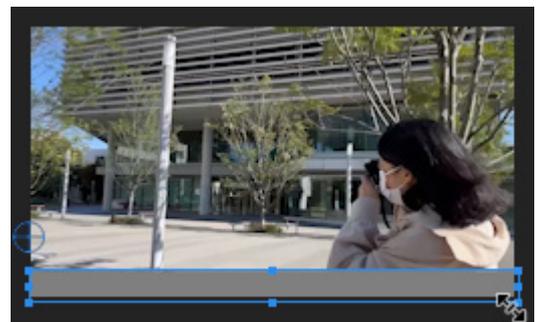


4. 長方形の灰色の部分を持ってドラッグすると長方形を移動できますので、左下の角を合わせ画面範囲と合わせます。



左下の角を画面範囲と合わせる。
少しはみでるくらいで良いでしょう。

5. 矩形の右上の青い点を持ってドラッグすると矩形の形が変わりますので、大体下の図くらいの矩形になるようにします。



少しはみでるくらいで良いでしょう。

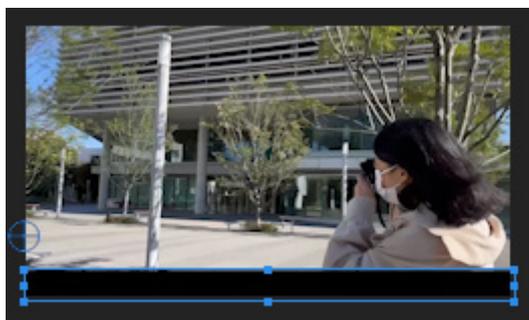
6. エフェクトコントロールパネル→
 アピアランス→塗りの灰色の部分をクリックします。



7. カラーピッカーが表示されますので、
 ○を左上隅にドラッグし、OKします。

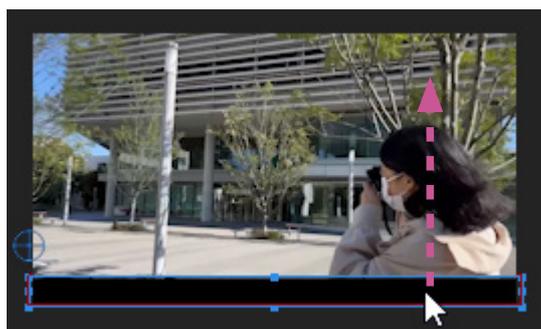


8. 矩形が黒くなりました。

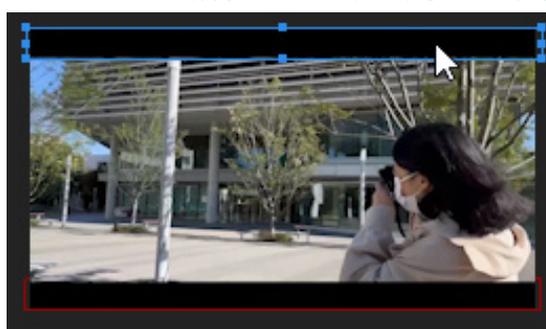


9. 同じ黒い長方形を画面の上にも作成します。コピー＆ペーストしますので、このままショートカットキー、
 Ctrl+CとCtrl+Vを実行しましょう。元の矩形の上に重なるようにコピーされますので、Shiftキーを押しながら、
 矩形を上をドラッグしていきます。大体で大丈夫なので、同じくらいの幅まで来たらドラッグを終了します。

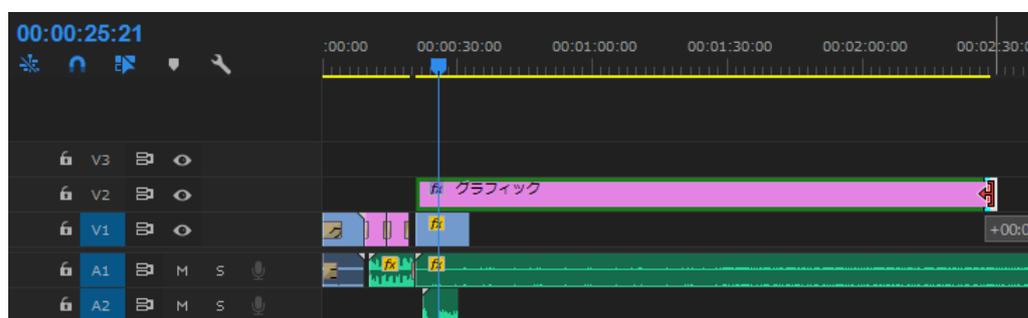
大体同じくらいの幅になるようにする



Shiftキーを押しながら上にドラッグ



10. タイムラインをしてみると、グラフィックというクリップがV2トラックに作成されています。このクリップを
 開始位置は「M02_04_入り口_HD」の開始部分に合わせ、終了位置は2分30秒くらいのところまで伸ばして
 おきましょう。



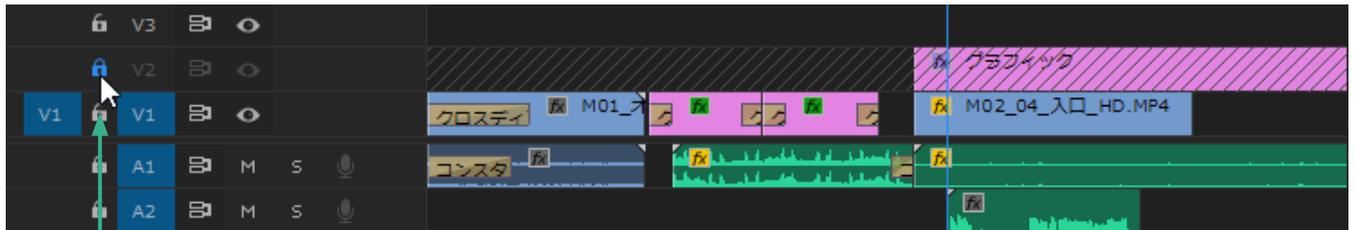
9-4 字幕のテキスト

ナレーションが配置されている時間帯に、字幕を下のレターボックスに収まるように配置します。ナレーションは英語で、字幕は日本語です。実習用ファイルに「英語訳.txt」が入っていますので、参考にして字幕を入れます。

1. このままテキストを配置するとテキストは独立したクリップにはならず、矩形の入ったグラフィックにテキストレイヤーとして組み込まれてしまいます。今回は独立したクリップにしたいので、矩形の入ったグラフィックが配置されている V2 トラックにロックをかけます。

V2 トラックの左にある鍵マークをクリックしましょう。V2 トラック全体に斜線の網掛けが入り、編集不可能になります。

2. 再生ヘッドを「n02_私の名前は.mp3」の開始位置に合わせます。



1. 鍵マークをクリック

2. 再生ヘッドを開始位置へ移動

3. ツールパネルから横書き文字ツール  を選択してプログラムモニターパネルの下の黒帯のところをクリックし、「私の名前はヴィヴィアン。」と入力します。

4. 選択ツールに持ち替え、エッセンシャルグラフィックを表示させます。

5. フォントを「Arphic Kyokashotai4JIS」にします。

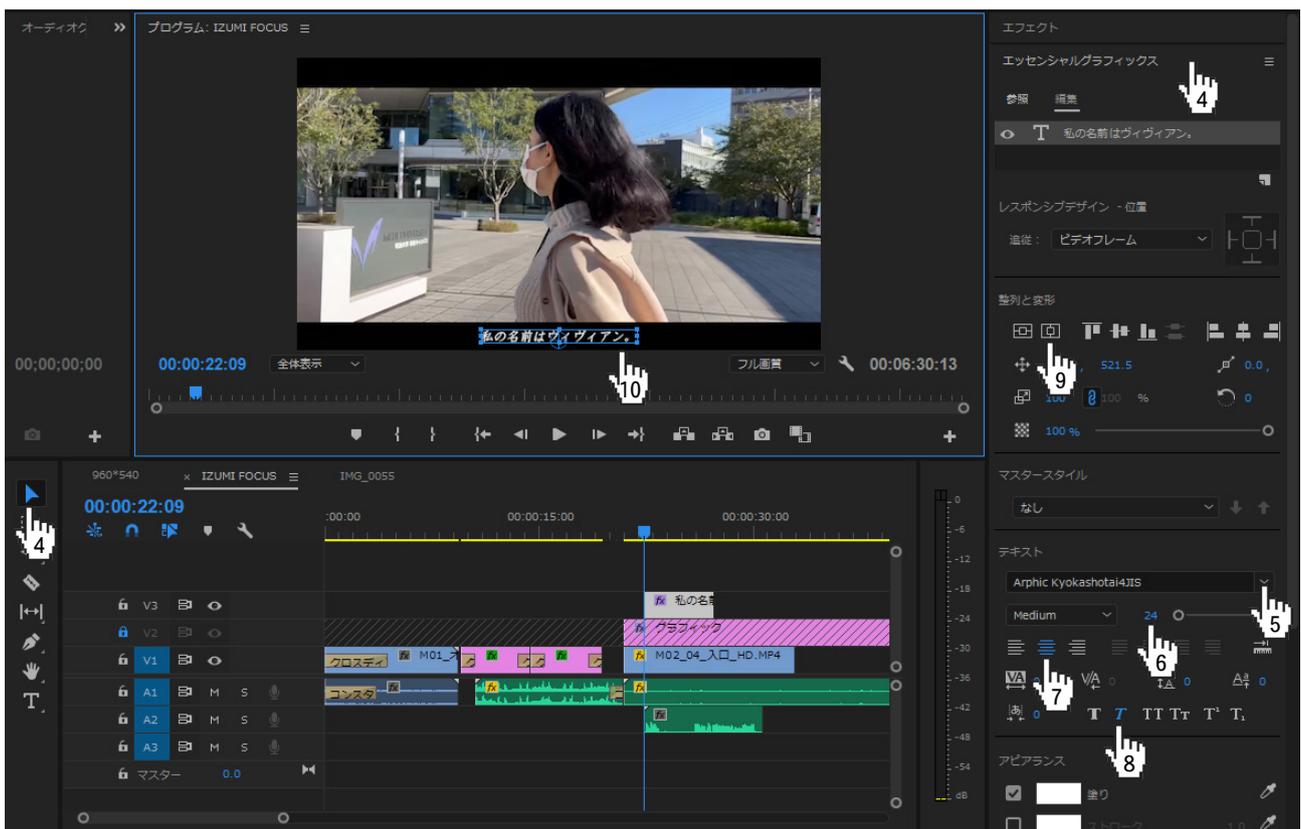
6. フォントサイズを「24」にします。

7. 「テキストを中央揃え」ボタンをクリックします。

8. 「斜体」ボタンをクリックします。

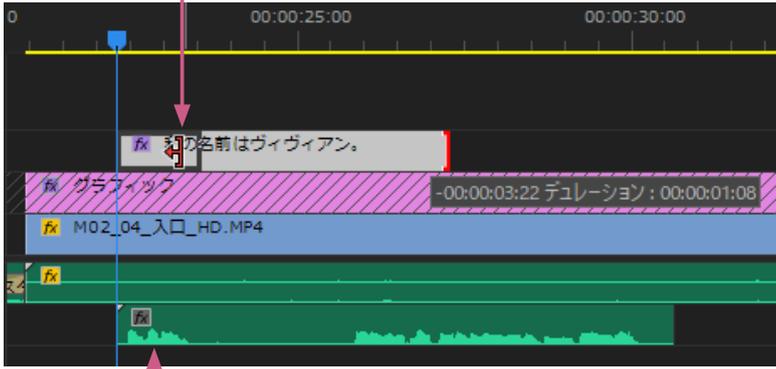
9. 「水平方向中央」ボタンをクリックします。

10. プログラムモニターパネル上のテキストを下の黒帯の垂直方向に真ん中にくるようにドラッグします。



11. タイムラインパネルのテキストクリップを「I'm Vivian.」と言い終わったあたりに長さを調整し

この辺りまでドラッグ



「I'm Vivian.」と言っている音の波形

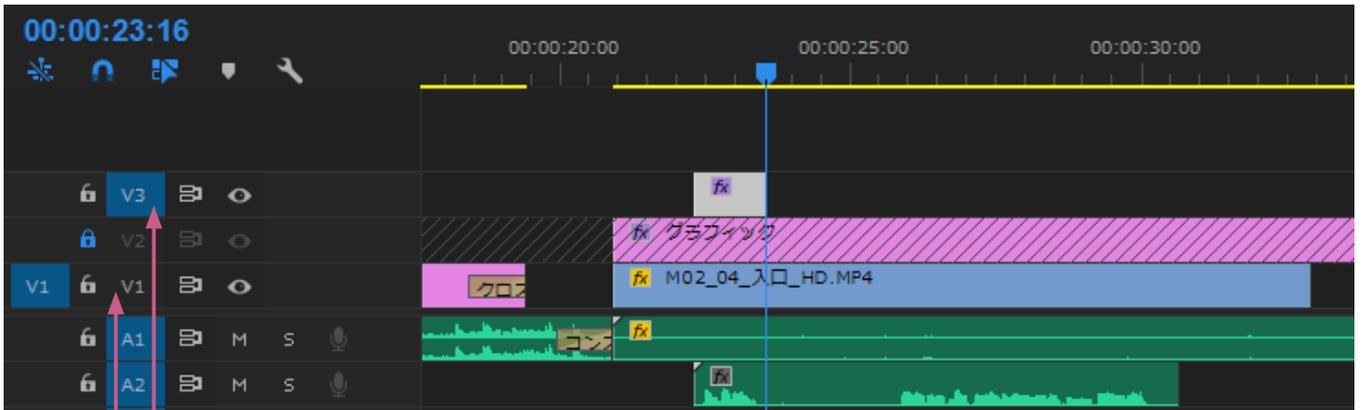
TIPS

再生ヘッドにスナップさせる

タイムラインを再生させて「I'm Vivian.」といい終わったところで再生を停止し、クリップの長さをドラッグ調整するとポイントが再生ヘッドにスナップします。ここで字幕が消える、と思ったところに再生ヘッドを合わせるとよいでしょう。

12. 字幕のテキストクリップをコピー & ペーストして次の字幕を入れていきます。「私の名前は…」のテキストクリップをクリックして選択状態にし、Ctrl+C でコピーします。

13. このままペーストすると V1 トラックに上書きされてしまいますので、コピー先のターゲットトラックを設定します。V1 トラックの青い四角の「V1」をクリックしてターゲットトラックを解除し、V3 トラックの「V3」をクリックし、青くします。

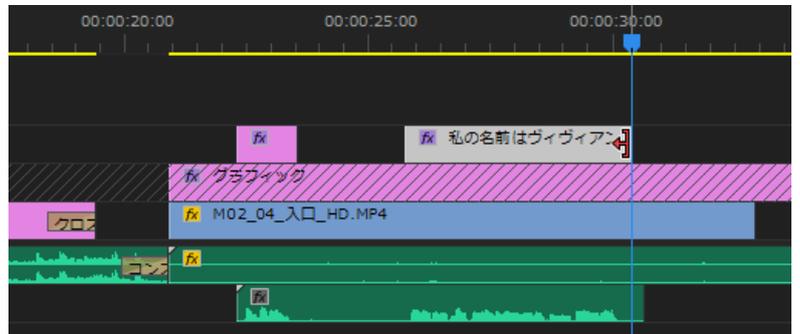


「V3」をクリックしてターゲットトラックを設定

「V1」をクリックしてターゲットトラックを解除

14. 再生ヘッドを「I want to record…」と話し始める直前に移動し、Ctrl+V でペーストします。

15. テキストクリップの長さを「…the ordinary moments in my daily life.」と言い終わったあたりに調整します。



TIPS

ターゲットトラック

シーケンス編集時に行うクリップのコピー & ペーストのペースト先を選択する時に使用します。青い状態が ON です。

16. プログラムモニターパネル上のテキストの上でダブルクリックし、テキストが赤い網掛けの状態になったら、「日常の中で、何気ない瞬間を記録に残したい」と入力します。選択ツールに持ち替えて、入力を確定することも忘れずにおこないましょう。



9-5 クロスディゾルブ「暗転」・静止画の配置

編集を進めましょう。次のクリップを配置していきます。Vivianさんがカメラを構え、撮影したであろう静止画がシャッター音と共に現れるという場面を作っていきます。

1. ビン：映像素材の「M03_07_第一校舎.MP4」をダブルクリックしてソースモニターパネルに映し出します。
2. 大体、8秒～11秒くらいにイン・アウト点を付けて、映像のみV1トラックの「M02_04_入口_HD.MP4」の後ろにドラッグします。

8秒頃

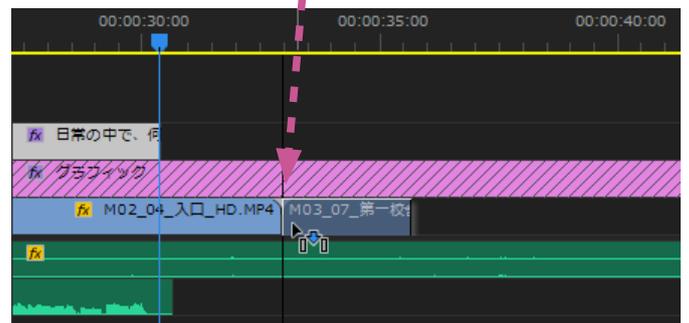


イン点ボタン

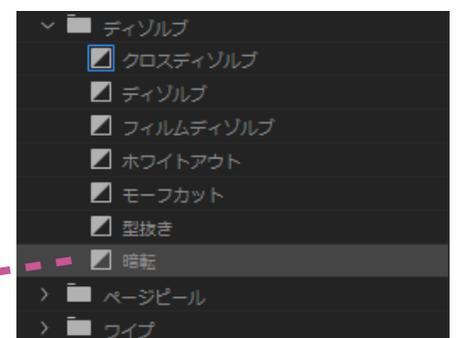
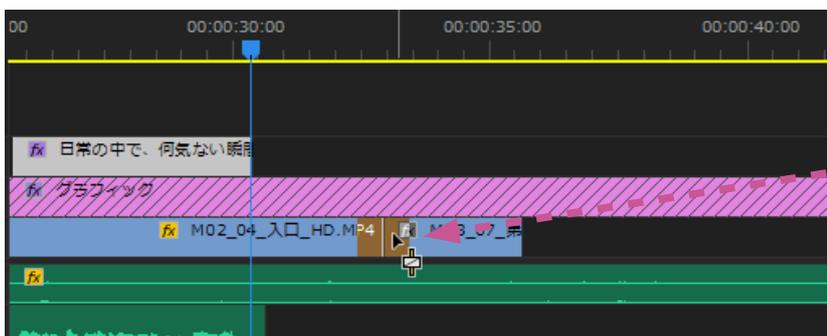
11秒頃



アウト点ボタン



3. クリップ間に「暗転」というクロスディゾルブをかけていきます。エフェクトパネル→ビデオトランジション→ディゾルブの中にある「暗転」を「M02_04_入口_HD.MP4」と「M03_07_第一校舎.MP4」の間にドラッグしましょう。

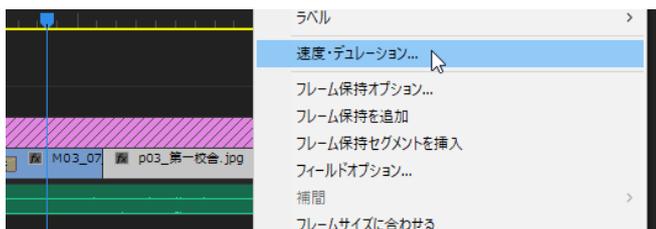


「暗転」は、前のクリップが徐々に黒くなり、徐々に次のクリップが現れるというエフェクトです。再生をして効果を確認してみましょう。

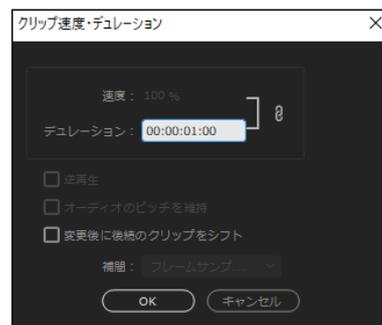
4. 静止画を配置します。ピン:映像素材の「p03_第一校舎.jpg」を「M03_07_第一校舎.MP4」の後ろに配置します。



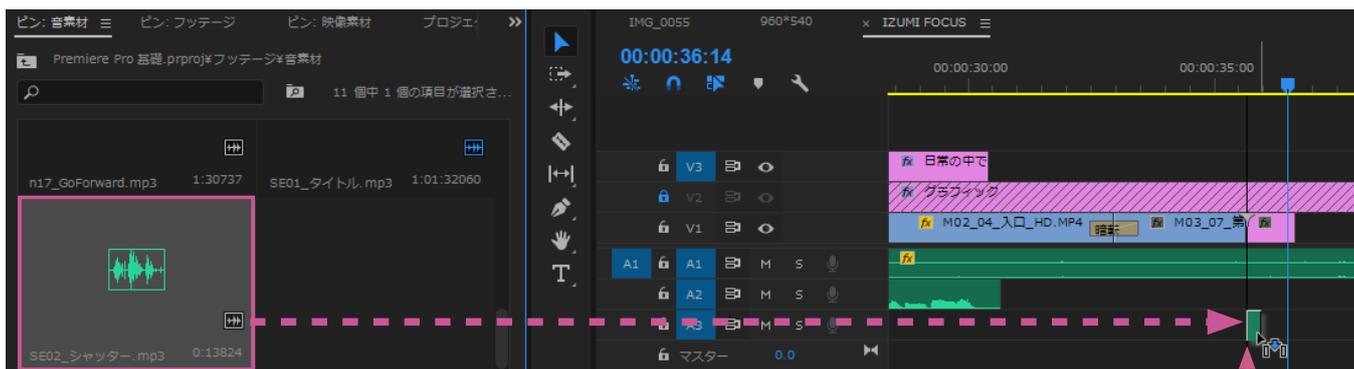
4. 静止画の長さを変更します。静止画のクリップの上で右クリックし、「速度・デューレーション」を選択します。



5. 「デューレーション」の数値の上でクリックし、「1秒」にします。OKをクリックします。



6. SE(サウンドエフェクト)のシャッター音を入れていきます。ピン:音素材の「SE02_シャッター.mp3」を「p03_第一校舎.jpg」にスナップさせて配置します。A3トラックに配置してください。



「p03_第一校舎.jpg」にスナップさせる

7. シャッター音の音量を小さくします。今回は先ほどと違う音量の調整方法を紹介します。タイムラインの「SE02_シャッター.mp3」のクリップ上で右クリックし、オーディオゲインを選択します。オーディオゲインウィンドウで「ゲインの調整」を「-7db」にします。



8. 再生して出来映えを確認してみましょう。シャッター音と同時に静止画が現われてきているでしょうか。

10 実習

これまでに学んだ編集方法を活かして、続きのクリップを配置し、字幕を作成していきます。反復して作業することで自分のやりやすい編集方法を身につけます。

Scene04 から順番に作業を進めていきましょう。見本を見ながら作業を進めてもよいでしょう。

Scene04

「p03_第一校舎.jpg」の後ろに「M02_04_入口_HD.MP4」の45～50秒を映像のみ配置しましょう。



Scene05

「M02_04_入口_HD.MP4」の後ろに「M05_STARTLINE.MP4」の2～3秒を映像のみ配置しましょう。

「p05_STARTLINE.JPEG」を「M05_STARTLINE.MP4」の後ろに配置し、デュレーションを「1秒」にしましょう。さらに、フレームサイズを合わせ、シャッター音も入れましょう

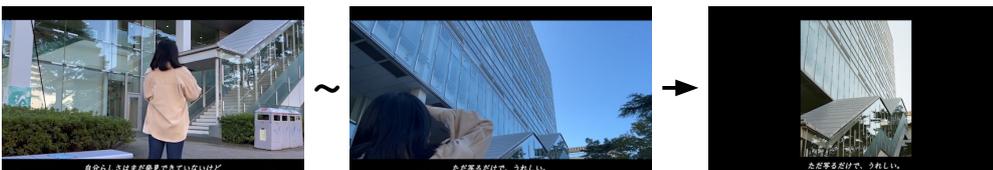
「M05_STARTLINE.MP4」が始まると同じくらいに「n05_自分らしさは.mp3」を配置し、「自分らしさはまだ発見できていないけど」と「ただ写るだけで、うれしい。」の字幕を入れましょう。



Scene06

「p05_STARTLINE.JPEG」の後ろに「M06_メディア棟.MP4」の1～9秒を映像のみ配置しましょう。

「M06_メディア棟.MP4」の後ろに「p06_メディア棟.jpg」を配置し、デュレーションを「1秒」にしましょう。さらに、フレームサイズを合わせ、シャッター音も入れましょう。



Scene07

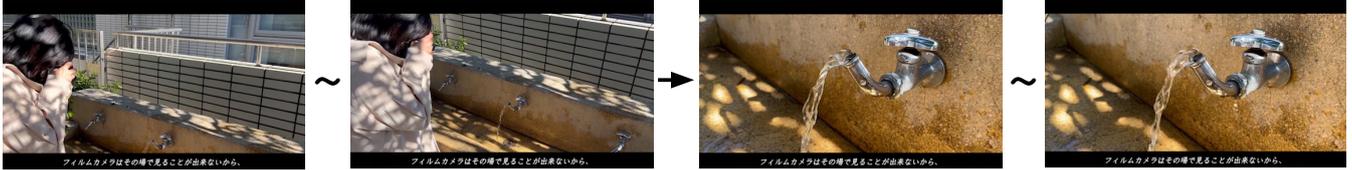
「p06_メディア棟.jpg」の後ろに「M03_07_第一校舎.MP4」の32～41秒を映像のみ配置しましょう。



Scene08 ~ 09

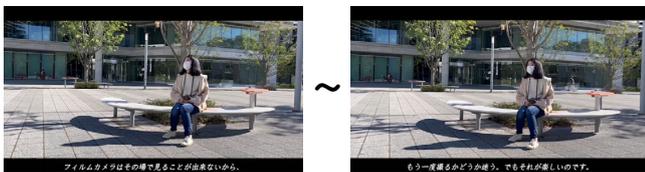
「M03_07_第一校舎.MP4」の後ろに「M08_09_水.MP4」の2～5秒を映像のみ配置しましょう。さらにその後ろに「M08_09_水.MP4」の33～40秒を映像のみ配置しましょう。

「M08_09_水.MP4」が始まるのと同じくらいに「n08_フィルムカメラは.mp3」を配置し、「フィルムカメラはその場で見る事が出来ないから、」と「もう一度撮るかどうか迷う。」の字幕を入れましょう。



Scene10

「M08_09_水.MP4」の後ろに「M10_休憩.MP4」の0～6秒を映像のみ配置しましょう。



Scene11

「M10_休憩.MP4」の後ろに「M11_第二校舎外.MP4」の5～8秒を映像のみ配置しましょう。

「M11_第二校舎外.MP4」の後ろに「p11_第二校舎外.jpg」を配置し、デュレーションを「1秒」にしましょう。さらに、フレームサイズを合わせ、シャッター音も入れましょう。



Scene12 ~ 13

「p11_第二校舎外.jpg」の後ろに「M12_13_トーテムポール.mp4」の9～14秒を映像のみ配置しましょう。その後ろに、「M12_13_トーテムポール.mp4」の41～44秒を映像のみ配置しましょう。

「M12_13_トーテムポール.mp4」の後ろに「p13_トーテムポール.jpg」を配置し、デュレーションを「1秒」にしましょう。さらに、フレームサイズを合わせ、シャッター音も入れましょう。

「M12_13_トーテムポール.mp4」が始まるのと同じくらいに「n12_良いものを撮ろうと.mp3」を配置し、「良いものを撮ろうと思わなくても、偶然良い写真と出会うことがあるから」と「それが楽しいのです。」の字幕を入れましょう。



Scene14

「p13_ トーテムポール . jpg」の後ろに「M14_ 第二校舎内 . MP4」の4～19秒を映像のみ配置しましょう。
「M14_ 第二校舎内 . MP4」の後ろに「p14_ 第二校舎内 . JPEG」を配置し、デューレーションを「1秒」にしましょう。
さらに、フレームサイズを合わせ、シャッター音も入れましょう。



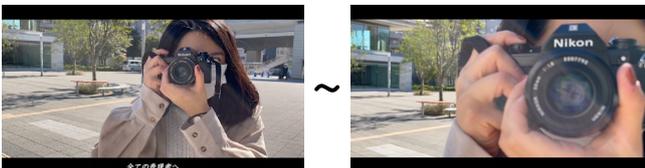
Scene15

「p14_ 第二校舎内 . JPEG」の後ろに「M15_ 木 . MP4」の8～12秒を映像のみ配置しましょう。
「M15_ 木 . MP4」の後ろに「p15_ 木 . jpg」を配置し、デューレーションを「4秒」にしましょう。
さらに、フレームサイズを合わせ、シャッター音も入れましょう。
「M15_ 木 . MP4」が始まるのと同じくらいに「n15_ 写真は真実 . mp3」を配置し、「写真は真実である。」と「実際に自分はそれに出会っているのです。」の字幕を入れましょう。



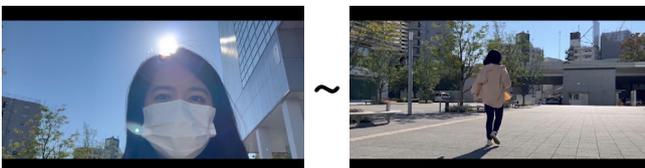
Scene16

「p15_ 木 . jpg」の後ろに「M16_ エンディング 1 . MP4」の13～19秒を映像のみ配置しましょう。
「M16_ エンディング 1 . MP4」が始まるのと同じくらいに「n16_ すべての表現者へ . mp3」を配置し、「全ての表現者へ」の字幕を入れましょう。



Scene17

「M17_ エンディング 2 . MP4」の2～7秒を映像のみ「M16_ エンディング 1 . MP4」の後ろに配置しましょう。
Vivianさんが振り返るのと同じくらいに「n17_ GoForward . mp3」を配置しましょう。



11

さまざまな効果

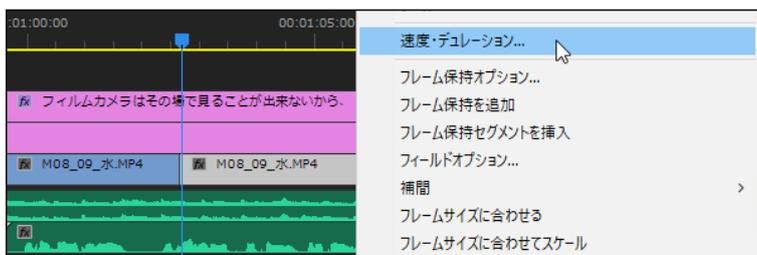
実習で並べたクリップに様々な効果をつけていきます。スロー再生、一時停止、Lumetri カラーを学びましょう。

11-1 スロー再生

Scene08、蛇口から水が流れるクリップにスロー再生する効果を付けます。



1. タイムラインパネル「M08_09_水.MP4」の二つ目に配置したクリップの上で右クリックし、「速度・デューレーション」を選択します。



2. 「速度」を「30%」にします。「変更後に後続のクリップをシフト」のチェックが外れていることを確認してOKします。

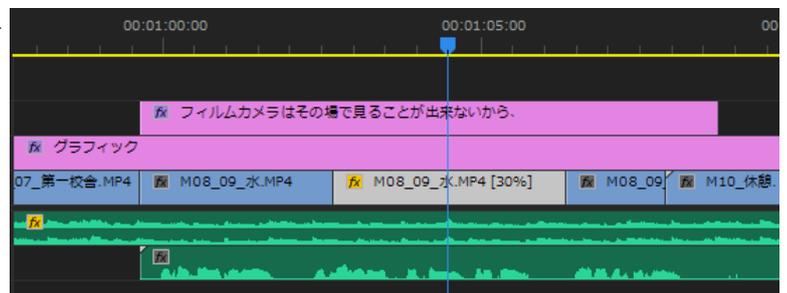


3. 再生してスローになっていることを確認しましょう。

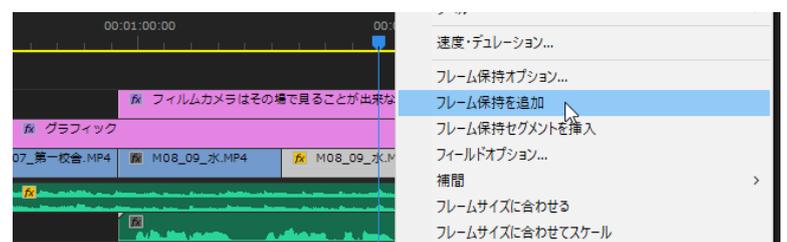
11-2 一時停止

さらに Scene08 において、スローで蛇口から水が流れるクリップに一時停止する効果をつけます。

1. 再生ヘッドをスロー再生されている「M08_09_水.MP4」の一時停止させたい時間に合わせます。今回は大体真ん中あたりにします。

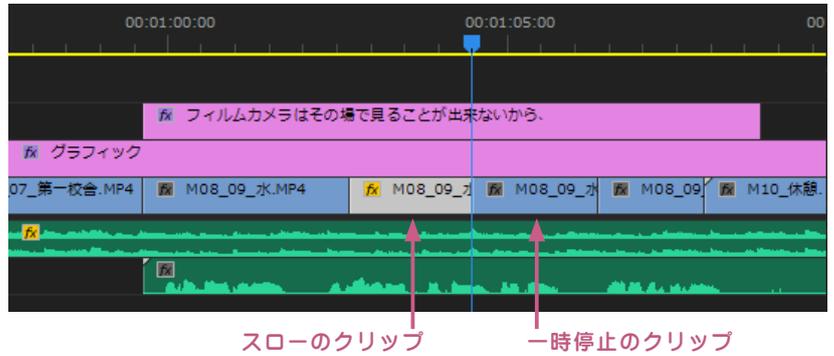


2. クリップ上で右クリックし、「フレーム保持を追加」を選択します。



3. 「M08_09_水.MP4」クリップが分割され、再生ヘッドの位置のフレームが一時停止された状態でクリップの最後まで続きます。

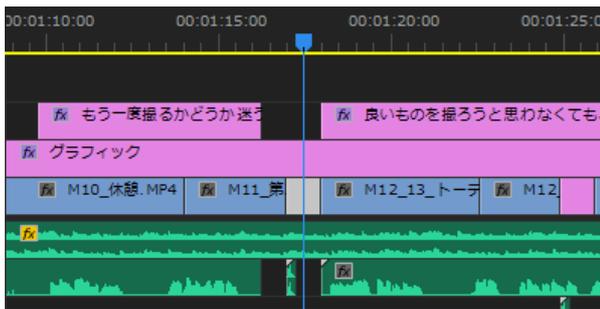
4. 再生して一時停止の効果を確かめましょう。



11-3 Lumetri カラー

Lumetri カラーとはカラーコレクション、カラーグレーディングを行うためのツールを豊富にそろえたパネルです。動画全体のカラーグレーディングもできますが今回はタイムライン上「p11_第二校舎外.jpg」に適用していきます。「p06_メディア棟.jpg」「p13_トーテムポール.jpg」「p15_木.jpg」はVivianさんのNikon EMのKodak フィルムで撮影したのですが、それ以外の画像はiPhoneで撮影したものです。この画像をカラー補正して、少し古い感じの雰囲気を出していきたいと思います。

1. タイムライン上の「p11_第二校舎外.jpg」を選択して、プログラムモニターパネルに映し出されるように再生ヘッドを移動しておきます。



2. 画面左、エフェクトパネルが入っているところの下の Lumetri カラー→クリエイティブ をクリックして表示させ、クリエイティブの横にチェックマークが入っていることを確認します。

3. Look の横の下矢印をクリックして一覧を表示させ、その中から「Kodak 5218 Kodak2383(by Adobe)」を選択します。



TIPS

Lookとは

既存のプリセットを使用してクリップにすばやくカラー調整を適用できます。Fuji ETERNAはFujifilmのカメラに搭載されたフィルムシミュレーションです。Kodak5218, 2383はコダック社のフィルムです。フィルムの味わいに近い効果を適用することができます。いろんなプリセットを選んでどうなるのかを見ておきましょう。

適用前



適用後



4. 調整グループの「シャープ」を「-100」、「自然な彩度」を「-70」に設定しましょう。さらに「シャドウ色相調整」と「ハイライト色相調整」カラーホイールを使います。右の図の「+」の位置でクリックしましょう。



適用前



適用後

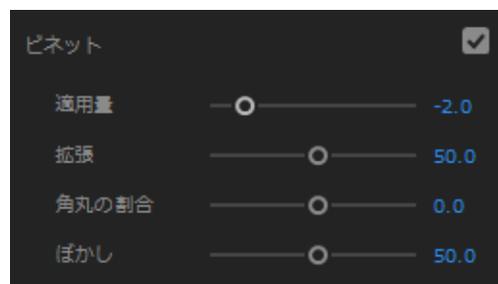


5. ビネットの効果を付けます。ビネットとは映像の四隅の光量を増減させて中心を目立たせる効果です。「適用量」を「-2.0」にしましょう。

TIPS

ビネットとは

写真、カメラでは「ケラレ」と呼ばれる状態で、画面の隅にレンズフードやフィルターが黒く写り込んでしまうことをいいます。映像ではビネットと呼ばれ、中心を目立たせるためによく使われる効果です。



適用前



適用後

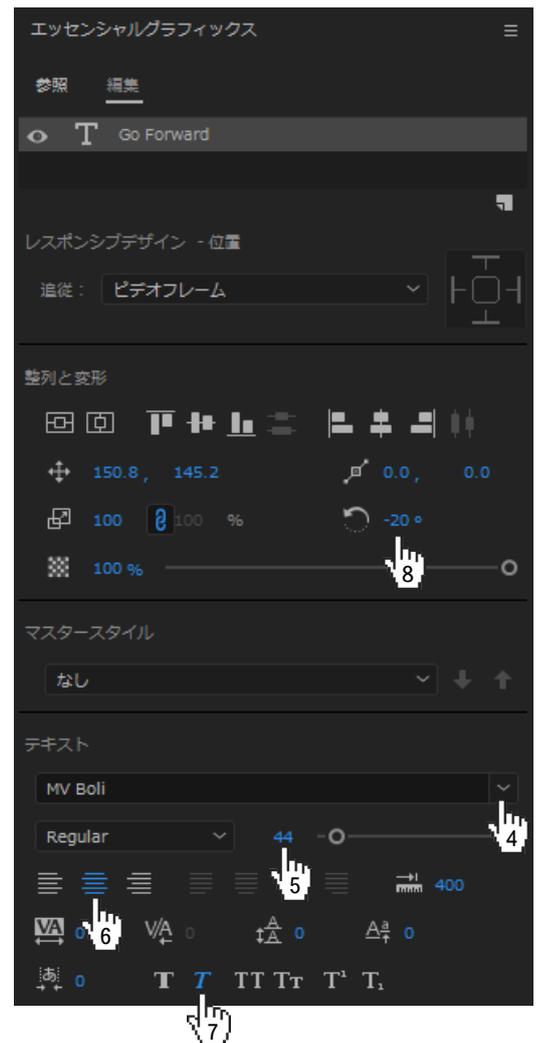


12 エンディング

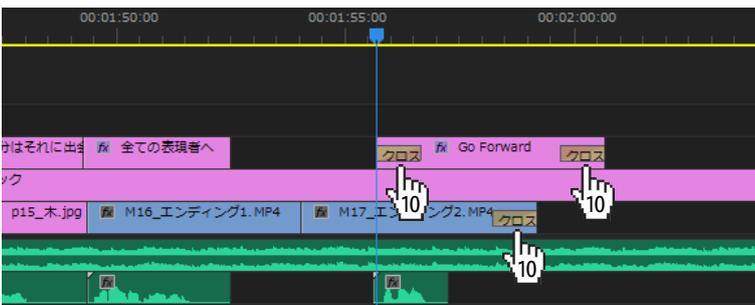
エンディングを作成していきます。「Go Forward」は字幕ではなく、画面上に浮かび上がらせます。続けてエンディングテロップも作成し、BGMにクロスフェードをかけます。

12-1 テキストを回転させる

1. 再生ヘッドを「Go Forward」と言い始めるあたりに移動させ、ツールパネルの横書き文字ツール **T** に持ち替えます。
2. 画面左上のあたりでクリックし、「Go Forward」と入力します。
3. ツールパネルの選択ツールに持ち替え、テキストを青い枠線で囲まれた状態にします。
4. エッセンシャルグラフィックスのテキストグループのフォントを「MV Boli」にします。
5. フォントサイズを「44」にします。
6. 「テキストを中央揃え」ボタンを押してONにします。
7. 「斜体」ボタンを押してONにします。
8. 整列と変形グループの「アニメーションの回転と切り替え」を「-20」に設定します。
9. プログラムモニターパネル上のテキストをドラッグして大体下の図の位置まで移動します。



10. タイムラインパネル「Go Forward」のクリップの前後に「クロスディゾルブ」を入れます。また、「M17_エンディング 2. MP4」クリップの後ろにも「クロスディゾルブ」を入れます。



11. 再生してクロスディゾルブのタイミングを確かめましょう。

12-2 エンディングテロップを作成する①

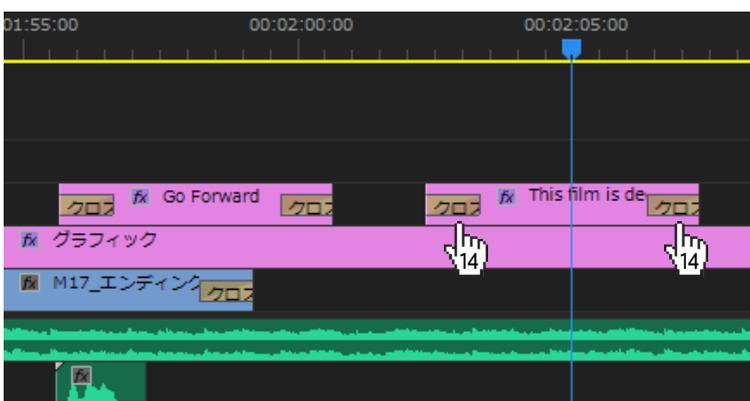
1. 再生ヘッドを「Go Forward」のテキストクリップが終了してから2秒後くらいのところに移動させ、ツールパネルの横書き文字ツール **T** に持ち替えます。
2. 画面左上のあたりでクリックし、「This film is dedicated to the memory of (Enter で改行) Sutemi Noguchi」と入力します。
3. ツールパネルの選択ツールに持ち替え、テキストを青い枠線で囲まれた状態にします。
4. エッセンシャルグラフィックスのテキストグループのフォントを「Baxter」にします。
5. 一行目と二行目を違うフォントサイズにします。プログラムモニターパネル上のテキストの上でダブルクリックし、一行目だけをドラッグして選択します。
6. エッセンシャルグラフィックスにて、一行目のフォントサイズを「28」にします。
7. 同じ要領で二行目を選択し、フォントサイズを「31」にします。
8. 「テキストを中央揃え」ボタンを押して ON にします。
9. 整列と変形グループの「垂直方向中央」ボタンと「水平方向中央」ボタンを押します。
10. テキストグループ、「トラッキング」の数値の上でスクラブさせ、数値を「91」くらいにしましょう。
11. 「行間」の数値の上でスクラブさせ、数値を「15」くらいにしましょう。
12. 文字の体裁を整えると、画面中央からずれてしまうことがありますので、最後にもう一度「垂直方向中央」ボタンと「水平方向中央」ボタンを押します。
13. 「斜体」ボタンを押して OFF にしましょう。



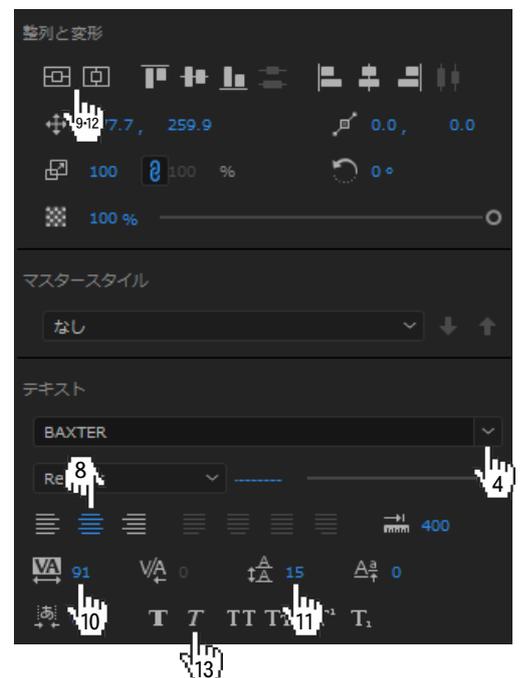
THIS FILM IS DEDICATED TO THE MEMORY OF
SUTEMI HORIGUCHI



14. タイムラインパネル「This film…」のクリップの前後に「クロスディゾルブ」を入れます。

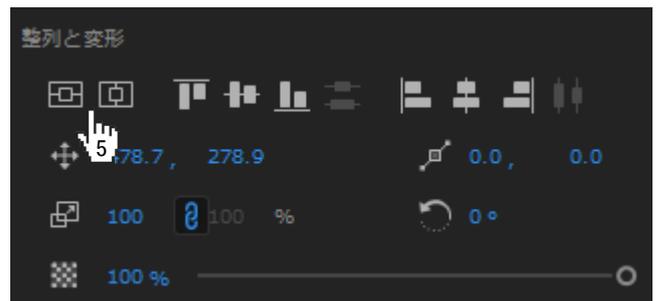


15. 再生して確認しましょう。



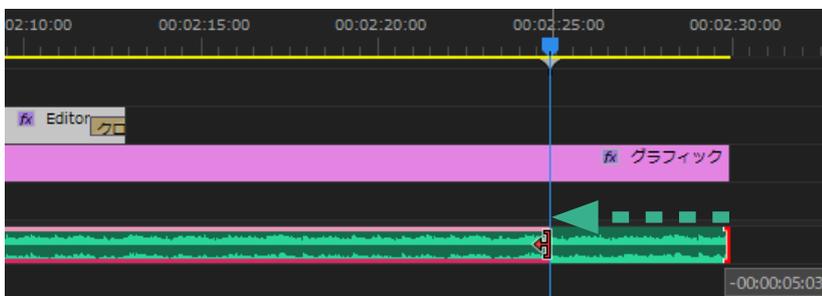
12-3 エンディングテロップを作成する②

1. タイムライン上のテキストクリップ「This film…」の上で右クリックし、「コピー」を選択します。
2. 再生ヘッドを前のテキストクリップ「This film…」が終了して1秒後あたりに移動させ、Ctrl+V、またはメニューバー→編集→ペーストします。
3. コピーしたクリップのテキストを変更します。プログラムモニターパネル上のテキストの上でダブルクリックし、「Editor Tarou Meiji」と入力します。（自分の名前でも大丈夫です。）
4. ツールパネルの選択ツールに持ち替え、テキストを青い枠線で囲まれた状態にします。
5. エッセンシャルグラフィックスにて、整列と変形グループの「垂直方向中央」と「水平方向中央」ボタンを押します。

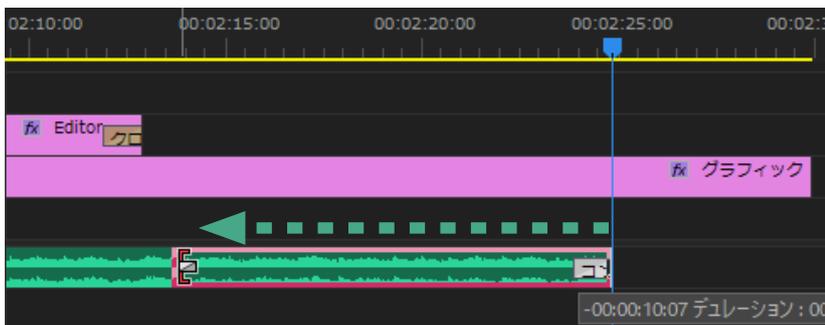


12-4 BGM に最後のクロスフェードをかけ、終了位置を決定する

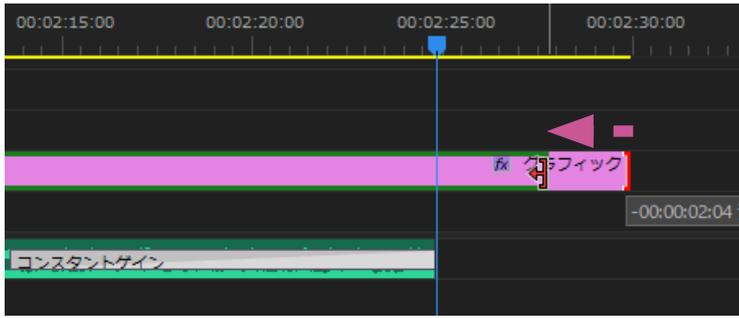
1. 再生ヘッドをテキストクリップ「Editor…」が終了してから12秒後くらいに移動させ、A1トラックの「BGM02.mp3」のクリップを再生ヘッドにスナップさせるように短くします。



2. 「BGM02.mp3」のクリップの最後に「コンスタントゲイン」をドラッグし、テキストクリップ「Editor…」が終了して1秒後あたりまで効果を伸ばします。



3. グラフィッククリップを「BGM02. mp3」クリップが終了してから 3 秒後くらいまで短くします。



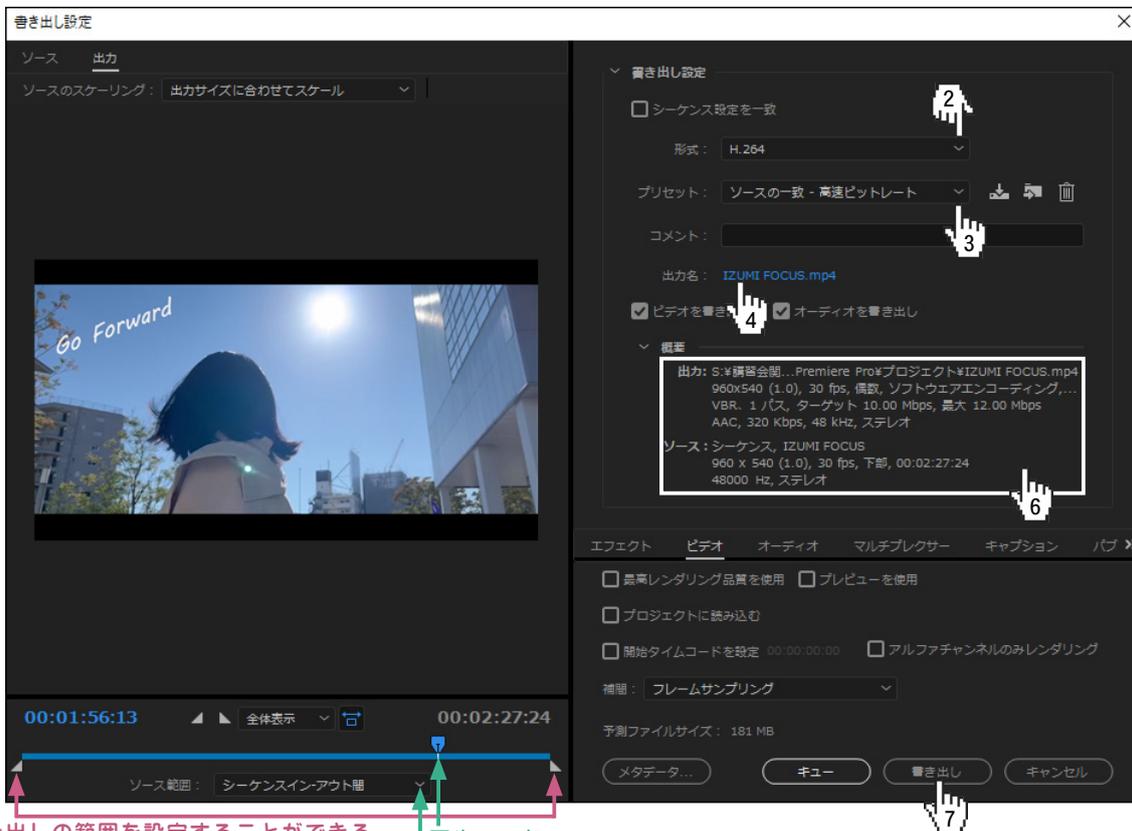
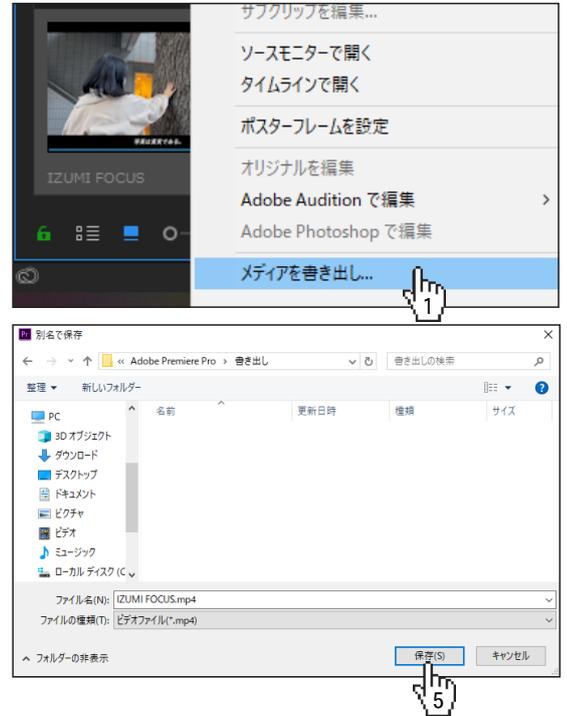
4. 再生して確認しましょう。

13 書き出し

シーケンス「IZUMI FOCUS」を書き出して1本の.mp4ファイルを作成します。

13-1 書き出し

1. プロジェクトパネルのシーケンス「IZUMI FOCUS」の上で右クリックし、「メディアを書き出し」を選択します。
2. 書き出し設定ウィンドウで形式を「H.264」にする
3. プリセットは「ソースの一致」を選択する
4. 出力名の横の「IZUMI FOCUS.mp4」をクリックする。
5. 「別名で保存」ウィンドウが開くので、保存先のフォルダを「書き出し」フォルダにし、任意の名前をつけ、「保存をクリックする」
6. 動画のサイズ、選んだシーケンスなど設定内容を確認する。
7. 「書き出し」をクリックする

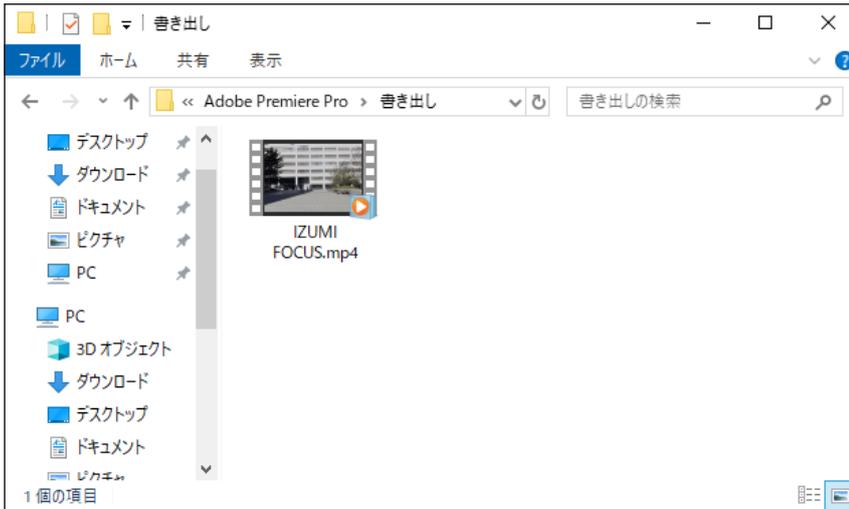


書き出しの範囲を設定することができる

再生ヘッド

「シーケンス全体」を選ぶことができる

8. 保存したフォルダ、「書き出し」フォルダを確認すると「IZUMI FOCUS.mp4」ファイルが出来ていることがわかります。



9. 問題なく書き出されているか、再生して確認しましょう。

講座で使用した素材について
DOVA-SYNDROME 提供
<https://dova-s.jp/>
2021年12月15日参照